

【基本施策】 2 多様なニーズに対応するみどりの確保

近年の暮らし方や働き方の変化に伴い、身近な公園や緑地への期待が高まっています。しかし、みどりの空間は未だ十分に活用されておらず、市民の多様な要望に応えられていない現状があります。都市のみどりは単なる風景ではなく、遊び、食育、健康、交流、そして防災に欠かせない、大切な資源です。このような背景を踏まえ、公園をはじめとする地域にある身近なみどり空間について、多様な市民の想いを受け止め、市民生活に生かすための取組を展開します。この取組にあたっては、行政だけでなく、市民、企業、団体が協力し、暮らしの利便性と豊かさの向上を目指します。

① 市民農園の推進

市民農園を整備し、利用できる機会を広げることで、市民が気軽に農業体験を行える場を提供し、食育の推進、健康増進、地域社会の活性化を図ります。

② 市民緑地制度等の活用

市民緑地制度や管理協定、自然共生サイトの認定等、土地の特性に合わせた多様な手法の活用を検討します。あわせて、民有地の保全や市民への開放、生物多様性の確保に向け、みどり法人等と連携した持続可能な管理体制についても検討します。

表 5-2 みどりの守るための多様な選択肢(本市において実績のない制度)

制度名	概要
自然共生サイト	民間の緑地、里山や公園など、生物多様性が守られている場所を国が認定する制度です。自然保護区と同等に生き物の大切な生息地として評価されます。
市民緑地認定制度	民間の土地所有者が、自分の土地をみんなが利用できる緑地として開放する仕組みです。市がその計画を認定し、緑地の整備や管理をサポートしてくれます。
市民緑地契約制度	土地の所有者が市などに土地を貸し出し、地域住民が利用できる緑地として管理してもらう制度です。協力すると、税金の優遇措置などが受けられます。
緑地保全地域制度	豊かな自然環境を守るため、特に重要な場所を指定して開発などを制限する制度です。木を切ったり建物を建てたりする行為が厳しく規制されみどりを守ります。
管理協定制度	緑地の所有者が自分で手入れをするのが難しい場合に、市や NPO などが代わりに管理を行う協定を結ぶ制度です。緑地が荒れるのを防ぎ良好な状態に保ちます。
みどり法人制度	緑地の保全や緑化活動を行う NPO 法人などを、市が公的に位置づける制度です。民間団体が主体となって、みどりを守り育てる活動に取組やすくなります。

③ 公園ごとの利用ルールづくり

公園ごとの利用ルールを柔軟に定めたり、見直したりすることで、公園の多角的な活用を促進し、地域資源の有効利用と市民の利便性向上を図ります。



ワークショップの風景

2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる

(3) みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みづくり

【基本施策】 1 みどりのモニタリングの実施

持続可能なまちづくりを進める上で、都市のみどりは、私たちの生活を守り、豊かにする欠かせない資源です。みどりは、洪水被害や暑さを和らげ、多くの生き物を育み、日々の暮らしに潤いを与えてくれます。この自然の恵みを未来へ確実につなぐため、本市のみどりが本来のチカラを発揮できているか、その質を正しく把握する仕組みを導入します。みどりのモニタリングでは、専門的な実態調査に加え、市民と協働した生き物調査や市民の声を聞くアンケート調査を通じて、みどりの客観的な状態と市民の評価を明らかにし、その結果をわかりやすく公開しながら、今後のまちづくりに生かしていきます。

① グリーンインフラの実態調査の実施

計画改定時などに、みどりの現況調査やグリーンインフラの分析を実施します。これにより、都市のみどりの現状と課題を正しく把握し、効果的な計画づくりや対策につなげます。

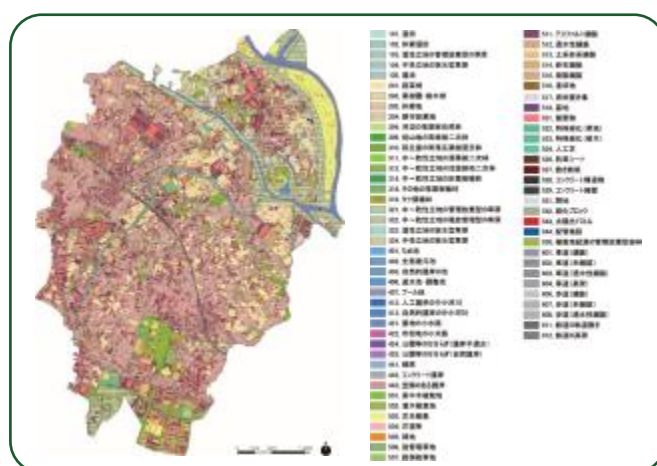


図 5-5 朝霞市グリーンインフラマップ

② 市民協働の生き物調査による生物データベースの整備

市民参加型の生き物調査を継続しつつ、今後は生き物を発見した場所の位置情報を記録できるデータベースの新たな整備を検討します。これにより、生物多様性の現状を把握し、環境学習やまちづくりへの活用を目指します。



図 5-6 あさか生き物調査 2025

③ みどりの市民アンケート調査の実施

計画改定時などに、市民アンケート調査を実施します。みどりに対する市民の意識や要望を把握し、それらを計画に反映させることで、市民の想いに寄り添ったみどりのまちづくりを進めます。

【基本施策】 2 みどりの普及啓発の推進

私たちは今、地球温暖化や自然災害等のリスクに直面しています。こうした時代において、まちの強さと快適さを高めるための知恵の一つが、自然のチカラを生かしたグリーンインフラの考え方です。公園や街路樹、身近なみどりの空間は、単なる憩いの場ではありません。夏の暑さを和らげ、雨水を地下に戻し、災害時の被害を最小限に抑えるなど、私たちの暮らしを支える大切な役割を持っています。こうしたみどりの価値を共有し、地域全体で育む文化をつくるため、みどりの大切さを伝える活動を積極的に進めます。この取組を通じて、朝霞の豊かな自然を次世代につなぎ、安全で持続可能なまちづくりを実現していきます。

① グリーンインフラの多面的効用の評価と公表

ウェブサイト等を通じて、グリーンインフラが持つ多様な効果を分かりやすく紹介します。みどりがどのような役に立っているのか、その価値を正しく伝えることで、市民や民間事業者のみどりに対する理解を深め、緑化活動への参加のきっかけづくりを行います。

② グリーンインフラの多面的効用に資する緑化指導

建物をつくる際などの緑化の指導において、防災や環境、景観など、グリーンインフラの効果を高める工夫を促します。これにより、災害に強く、持続可能なまちづくりに貢献します。

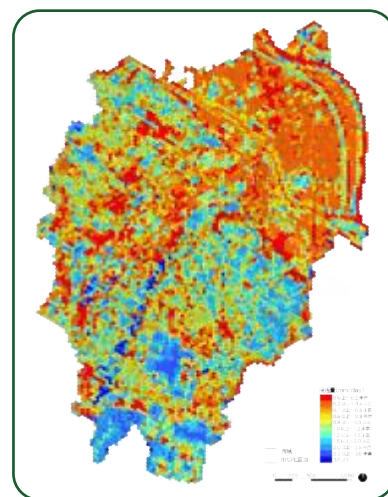


図 5-7 水循環の評価例

③ 地域社会に貢献するみどりづくりの促進

環境への貢献や生物多様性を守る取り組みに対する、認証・表彰制度の活用を広めます。民間事業者や市民による素晴らしい緑化活動を後押しし、地域社会全体でみどりを大切にする文化を育みます。

表 5-3 主な緑地・環境認証制度一覧

制度名	概要
TSUNAG 認定	国土交通省が行っている新しい制度。緑の質や脱炭素への貢献を評価し、認定されると税制優遇などの支援が受けられます。
SEGES	民間の緑地が社会や環境にどう貢献しているかを評価。日々の丁寧な維持管理や活動の質が認定されます。
ABINC 認証	生物多様性に特化した認証制度。生き物が住みやすい環境か、生態系のバランスを重視して審査します。
自然共生サイト	民間や自治体を守る自然を国が認定する制度。国際目標である 30by30 に貢献する区域として登録されます。
JHEP 認証	生物多様性の保全への貢献度を数値化し、土地利用や緑地の環境価値を客観的・定量的に評価、認証する制度です。
CASBEE	建物物の環境性能で評価し格付けするシステム。省エネだけでなく、敷地の緑化や生き物への配慮も総合的に評価されます。

2 みどりを支える仕組みや担い手を育て・広げ・つなげる

(4) みどりの支援体制の強化

【基本施策】 1 財源の確保と活用 【重点施策】

快適で安全なまちづくりに、公園の整備やみどりの保全是欠かせません。しかし、限られた予算の中で、みどりを守り育てる取組を続けていくことは簡単ではありません。将来にわたり豊かなみどりを残していくため、財源の確保に力を入れます。具体的には、防災力の向上やみどりの保身に役立つ国の補助金のほか、みどりのまちづくり基金やふるさと納税などを積極的に活用します。こうして確保した財源を、公園やみどりの整備に役立てるとともに、市民や民間事業者の活動支援にもつなげます。

① 補助金等の活用

国などの交付金や補助金などを積極的に活用することで、みどりづくりのための財源を確保し、計画的なみどりの整備や管理を進めます。

表 5-4 公園整備・緑地保全支援制度一覧

実施主体	制度・財源	事業区分・メニュー名
国土交通省	社会資本整備総合交付金 (または防災・安全交付金)	都市公園・緑地等事業(基幹事業)
		↳ 都市緑地保全事業
		↳ 都市公園安全・安心対策事業
		↳ 社会課題対応型都市公園機能向上促進事業
環境省	生物多様性保全推進交付金	生物多様性保全推進支援事業
	地球環境基金(環境再生保全機構)	環境保全活動助成
林野庁	森林・山村多面的機能発揮対策交付金	地域環境保全タイプ
埼玉県	彩の国みどりの基金	みどりの活動支援補助事業
	さいたま環境創造基金	こどもエコクラブ活動支援助成金
	さいたま緑のトラスト基金	トラスト保全地取得・管理

② 多様な財源の活用

みどりのまちづくり基金やふるさと納税などの活用を広げます。市民や民間事業者からの寄付を募ることで、みどりづくりの活動資金を確保し、みんなで支えるみどりのまちづくりを進めます。

表 5-5 様々な財源

みどりのまちづくり基金	ふるさと納税	クラウドファンディング
ネーミングライツ(命名権)	環境金融(J-クレジット等)	ロケーションサービス(広告料等)

【基本施策】 2 みどり・公園分野における DX の推進 【重点施策】

近年では公園などの管理に伴う業務量が増え、これまでのやり方だけでは、みどりの質を保つことが難しくなっています。暮らしに欠かせない公園などのみどりを未来へ守り、快適さを維持していくために、デジタル技術を活用した業務の効率化やみどりの情報発信についての検討を進めています。デジタル技術を取り入れることで、限られた人員や時間のなかで暮らしの安全や便利さを高めるほか、公園の利用案内やイベント情報を充実させ、誰もが公園づくりへ参加しやすい環境を整えます。

① 公園における DX の推進

公園台帳のデジタル化や公園の案内・イベント情報の周知などにデジタル技術を活用することを検討します。これにより、公園管理を円滑に行うとともに、情報発信をさらに充実させます。

表 5-6 公園における DX 活用の事例

区分	事例	概要・期待される導入効果
基盤	公園台帳のデジタル化	公園の施設データなどをクラウドに移行し、タブレット等で見られるようにすると、現地で情報の確認や更新が可能となるなど、業務がより円滑に進みます。
管理	市民投稿システム	遊具の故障などを、利用者が専用のアプリを通して市に知らせる仕組みです。最新情報をリアルタイムで確認できるため、迅速な対応が可能となります。
管理	自動水やり・AI診断	センサーで土の乾き具合を測定して自動で水やりすることや、AIアプリで木の状態を調べることが出来ます。人の手間を減らしながら、植物を管理できます。
防犯	スマートポール	防犯カメラ、街灯、Wi-Fiなどが一つになった柱です。普段は防犯に役立ち、災害時にはスマホの充電やインターネットがつながる拠点になります。
防犯	AI見守りカメラ	映像を録画するのではなく、AIが転倒や悲鳴などの異常だけを見つけます。プライバシーを守りながら、万が一の事故に迅速に対応できます。
分析	利用実態の可視化	スマホの電波などで利用者数を自動で数えます。勘に頼らず、実際のデータをもとにして、本当に必要な遊具やベンチなどを整備できます。
広報	電子掲示板	張り紙の代わりに、デジタル画面でお知らせを表示します。遠隔操作ができるので、災害情報や熱中症アラートなどを、遅れることなく伝えられます。
学習	解説QRコード	樹名板のQRコードをスマホで読み込むと、詳しい解説や動画が見られます。低コストで導入可能であり、公園を楽しく学べる場所に変えられます。

② WEBを活用したグリーンインフラの普及啓発

ウェブサイトによるグリーンインフラの役割紹介など、デジタル媒体を活用してみどりが持つ多様な効果を伝えます。より多くの方のグリーンインフラに対する理解を深めることで、みどりの活動への参加を後押しします。

3 みどりのある暮らしを楽しむ

(1) みどりのシティプロモーションの展開

【基本施策】 1 みどりに触れ楽しめるイベントの開催

暮らしを支える豊かなみどりをかけがえのない宝として未来に引き継ぐため、みどりの魅力を発信するイベントを展開します。まちのみどりは、単に美しい景観をつくるだけでなく、私たちの生活の安全を守り、人々が交流を育む大切な場所です。多くの方の自然とふれあいたいという想いを踏まえ、みどりを身近に楽しみ、親しむ機会を広げていきます。

① みどり空間を活用したイベントの開催

彩夏祭や朝霞の森秋まつり、アサカストリートテラス、黒目川花まつり等、みどりのある空間を活用したイベントを継続的に開催します。みどりに親しみ、交流する機会をつくることで、地域の魅力を高めます。



ASAKA STREET TERRACE
(アサカ ストリート テラス)

② 里山環境の活用

里山観察会や田んぼの耕作など、里山環境を活用した体験活動を広げます。里山の自然に触れ、その価値を理解し、保全活動への関心を高めるきっかけを提供します。



あさかり山クラブ主催の
タケノコ掘り体験

③ 農を通じた交流の場づくり

農業祭等のイベントを通じて、農を通じた市民交流の場をつくることで、都市農業への理解を深め、地域の活性化と食育を進めます。



朝霞市農業祭

【基本施策】 2 情報発信の強化と充実 【重点施策】

市内の豊かなみどりや水辺、そして地域に根差した市民活動は、朝霞らしい豊かな暮らしをつくる大切な土台であり、それらを活用したイベントを開催してきました。しかし、素晴らしいイベントやみどりの魅力についての情報が届かなければ、参加することや地域の楽しみを見つけるきっかけも生まれません。そこで情報発信に力を入れることにより、地域の活力を高め、みどりとともにいきいきと過ごす暮らしを実現します。

① **みどりの情報発信**

みどり空間を活用したイベントの周知など、情報発信を充実させます。みどりに対する関心を高めることで、みどりづくりへの参加を後押しします。

② **市民イベント情報の集約と発信**

市民団体などが主催するイベントの情報をとりまとめ、広報の支援を行います。これにより、市民活動を盛り上げるとともに、みどりに関するイベントへの参加を後押しします。



市民グループ主催のイベントの周知



市民参加イベントの周知

3 みどりのある暮らしを楽しむ

(2) みどりのある暮らしの実践

【基本施策】 1 みどりを楽しむ 【重点施策】

今の都市生活において、みどりは単なる癒しではなく、暮らしを支える大切な存在です。ヒートアイランド現象の緩和や災害への備え、私たちの心と体の健康や、地域のつながりを生む役割も果たしています。

ぜひ、日々の暮らしの中で、市内の様々な場所にあるみどりに触れ、楽しんでみてください。

私たち一人ひとりがみどりに関心を持ち、楽しみながら係ることが、将来にわたりみどりを守り育てる、持続可能な朝霞につながります。

① 家庭での緑化や菜園づくり

自宅の庭やベランダで、草花や野菜を育ててみませんか。身近な場所で土や植物に触れることで、育てる喜びを感じ、みどりのある心地よい暮らしが生まれます。

② 農産物直売施設等の利用

浜崎農業交流センターや市役所での直売などを利用して、市内で育った新鮮な農産物を味わいましょう。

③ 地産地消の実践

地元の野菜などを選んで購入する地産地消を実践してみましょう。地元の農業を応援することにつながり、食の安心・安全について考えるきっかけになります。

④ みどりを生かした健康づくり

グリーントレイルマップを片手にまちを歩いたり、公園の健康遊具を利用したりして、みどりの中で健康的な体づくりを楽しみましょう。

⑤ みどりのイベントへの参加

市内で行われるみどりのイベントに参加してみましょう。みどりに触れ、学び、多くの人と交流することで、みどりへの愛着がさらに深まります。



農産物直売所
(浜崎農業交流センター)



地産地消の取組



ウォーキングイベント

【基本施策】 2 みどりのボランティア活動への参加

私たちの暮らしに心のゆとりや安らぎを与えてくれるみどりを未来へつなぎ、その恩恵を受け続けるためには、行政による管理のほかに、市民一人ひとりが係ることが大切です。みどりを守り育てる活動は、自分たちの住むまちへの愛着を深めることにもつながります。

例えば、講習会に参加して学び、その知識を生かしてボランティア活動などを実践することで、みどりが元気になります。その結果、みどりの恩恵をさらに楽しむことができます。

ぜひ、こうした学び・実践・楽しむという良い循環を、毎日の暮らしに取り入れてみませんか。みどりのボランティア活動への参加を通じて、まちを支えるみどりの市民力を高めていきましょう。

① みどりのボランティア活動への参加

公園や里山の管理、道路の美化活動などに参加してみませんか。自分たちの手でみどりを手入れすることで、まちが美しくなるだけでなく、地域への愛着もより一層深まります。



きれいなまちづくり運動

② みどりのリサイクルへの参加

刈った草や落ち葉などのリサイクル活動に協力しましょう。みどりを資源として有効に活用することで、環境に優しく、自然の循環を大切にする社会づくりにつながります。



図 5-8 みどりのリサイクルの事例

③ みどりに係る講習会への参加

みどりに関する講習会に参加して、知識や技術を身につけましょう。みどりの育て方や手入れの方法を学ぶことで、一人ひとりが自信を持って活躍できるみどりの担い手になることができます。



講習会の風景

3 みどりのある暮らしを楽しむ

【基本施策】 3 みどりの交流の拡大

わたしたちの身近なみどりは、心と体の健康を守り、こどもたちの豊かな成長を支える大切な場所です。このみどりの良さをみんなで分かち合い、世代や立場を超えたふれあいの輪を広げていくことが、朝霞市の将来像である「暮らしつづけたいまち」につながります。

みどりのある暮らしを楽しみながら、みどりを育み、共有し、誰もが主役となれる交流の輪を一緒に広げていきましょう。

① 民間のみどりの公開

大学や寺社などで開催されるイベントに出かけたり、個人や企業の方が大切にしているお庭を見せてもらったりしてみませんか。地域の中にある、普段は気づかない素敵なみどりと出会うことができます。



道路に開かれた集合住宅の庭



境内地におけるイベント開催



② SNS を活用したみどりの交流

朝霞で見つけた素敵なお庭の写真や、SNS で発信してみませんか。投稿へのリアクションやコメントを通じた交流が、新しい発見やみどりづくりに参加するきっかけになります。



SNS による旬な情報の発信



SNS を活用した
みどりの交流機会の創出

6章 地域別の取組

みどりのカルテは、表 6-1 に示す構成で作成しています。また、表 6-2 に示す指標に基づき町丁目における分析結果を示しています。分析結果では、数値が大きいほど環境能が良好であると考えられる評価項目は黄緑色(■)、課題があると考えられる評価項目は桃色(■)のスケールバーで環境能の大小を示しています。


表 6-1 みどりのカルテの構成

地域名				グリーンインフラの効用別分析	効用別分析結果
面積	人口	緑被率	地域の位置		
市民アンケート調査	問1	みどりに対する満足度			健全な水循環を支えるみどり
	問2	豊か・魅力的と感じるみどり			都市の気温上昇を抑えるみどり
	問3	将来に残していきたいと思うみどり			地球温暖化の緩和に貢献するみどり
	問4	公園利用頻度			生き物の生息空間となるみどり
	問5	近くの公園についての評価			まちの景観・郷土の風景を形成するみどり
	問6	みどりのまちづくりに必要な施策			暮らしに息づく農業活動の場となるみどり
	問7	緑化活動等への参加経験			健康づくりの場となるみどり
	問8	身近な遊び場となるみどり			身近な遊び場となるみどり
	問9	にぎわいや交流の場となるみどり			にぎわいや交流の場となるみどり
	問10	みもりを守るための仮定の支払額			防災拠点となるみどり

表 6-2 グリーンインフラの分析指標

評価項目	評価指標	内容	町丁目別の値
健全な水循環を支えるみどり	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面浸透量	地表面浸透量の平均
	雨水の地表面排水量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面排水量	地表面排水量の平均
都市の気温上昇を抑えるみどり	地表面温度 (°C)	GI タイプの分布とランドサット衛星観測データより作成した輝度温度との回帰分析による推測地表面温度	推測地表面温度の平均
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	炭素固定量 (トン/ha/年)	GI タイプにおける純生産量の算定を介した年間の炭素固定量の算定	炭素固定量の平均
生き物の生息空間となるみどり	生物指標の多様度 (%)	34の生物指標を分母としたGIタイプで生息が想定される生物指標の数の割合	生物指標の多様度の平均
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	豊か・魅力的と感じるみどりの回答数 (件)	市民アンケート調査において抽出された豊か・魅力的と感じるみどりの回答数	回答数の平均
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	農業活動空間面積率 (%)	耕作地及び休耕地の50%の面積を評価単位空間面積で除したもの	面積率の平均
健康づくりの場となるみどり	散策路・歩道の長さ (m/ha)	公園緑地等の遊歩道と道路の歩道の長さ	1haあたりの歩道等の長さ
身近な遊び場となるみどり	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	半径 500m以内の人口に近隣住区モデルの住区基幹公園標準面積(4ha)を乗じた必要面積に対する現況の都市公園等の過不足面積	過不足面積の平均
にぎわいや交流の場となるみどり	イベント開催に供するオープンスペース面積 (㎡/人)	評価地点から 500m以内における 1000㎡以上の都市公園やイベント開催に供するオープンスペースの一人当たりの面積	面積の平均
避難地や防災拠点となるみどり	非水害時における避難有効面積 (㎡/人)	評価地点から 500m以内における学校や1000㎡以上の都市公園等における一人当たりの避難有効面積	避難有効面積の平均
	水害時における避難有効面積 (㎡/人)		避難有効面積の平均

内間木地域

面積	人口	緑被率		
3.7km ²	1,309人	64.7%		
問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.36 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>		
	d.お住いの近くの公園に満足している	0.04 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>		
	g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.04 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>		
	h.良いまちの景観がつけられている	0.00 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>		
問2 豊か・魅力的と感じるみどりの	新河岸川(22件)、荒川(5件)、秋ヶ瀬(2件)			
問3 将来に残したいと思うみどりの	新河岸川(6件)、荒川(3件)、秋ヶ瀬(1件)			
問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	13.5回(市全体 30.9回)			
問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.22 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.06 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>
	c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.11 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	-0.06 <small>(そう思わない1.0~1.0そう思う)</small>
問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる(34.4%)		【2位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる(21.9%)	
	【3位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(12.5%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する(6.3%)、公園や河川、農地を活用したイベントを充実させる(6.3%)、まちづくりへの参加やイベントなどの情報発信を充実させる(6.3%)	
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(28.6%)		【1位】全てに参加したことがない(28.6%)	
	【3位】道路などの清掃活動(23.8%)		【4位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産(9.5%)	
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】こどもの遊び場や散策の場となるみどり(¥310)		【2位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり(¥215)	
	【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥135)		【4位】まちの景観、郷土の風景を形成するみどり(¥70)	

市民アンケート調査

- 1章 計画の基本的事項
- 2章 みどりの現状と課題
- 3章 みどりの将来像
- 4章 みどりの指針
- 5章 みどりの取組
- 6章 地域別の取組
- 7章 計画の実現に向けて
- 参考資料集

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様度 (%)	豊か・魅力 と 感じるみ どりの回 答数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路・ 歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現状公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの遊 歩有効面積 (㎡/人)	水害時にお ける一人あ たりの避難 有効面積 (㎡/人)
内 間 木	大字上内間木	0.45	0.66	32.08	2.38	38.07	10.19	9.5%	49.9	2.04	96.64	95.01	21.11
	大字下内間木	0.50	0.28	30.93	3.32	48.29	16.31	9.7%	76.7	0.50	86.57	66.91	17.09
	大字宮戸の一部	0.50	0.06	30.83	3.81	52.37	9.63	25.6%	1.0	0.06	0.69	28.93	0.40
	大字浜崎の一部	0.58	0.50	31.51	2.99	45.60	12.79	3.4%	12.4	1.53	44.13	42.16	1.51
	大字田島の一部	0.38	0.28	31.34	2.24	41.42	13.31	0.2%	8.7	1.25	11.56	9.61	1.33
	大字田島の一部	0.49	0.02	29.81	3.23	56.27	24.14	0.0%	0.0	2.67	31.35	15.46	0.27
	地域全体	0.47	0.49	31.58	2.79	42.64	12.61	9.7%	56.5	1.39	87.27	79.78	18.08
朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95	

健全な水循環を 支えるみどり

この地域は、地下水が浅い場所にあるため、雨水が地面にしみ込みにくい特徴があります。そのため、雨水を一時的に貯める場所を確保することが大切です。

都市の気温上昇を 抑えるみどり

荒川や新河岸川などの水辺に囲まれており、夏に水を張る田んぼや、木陰を作る屋敷林などがあるため、他の地域に比べて地面の温度が低くなっています。しかし近年は、物流倉庫や工場が増えており、気温が上がるヒートアイランド現象が見受けられます。

地球温暖化の緩和に 貢献するみどり

荒川や新河岸川、朝霞調節池の広い草地のほか、田畑や屋敷林などが広がっており、二酸化炭素を吸収する大きな役割を果たしています。

生き物の 生息空間となる みどり

朝霞調節池は、水面から湿地、林が連続的につながる環境を形成しており、多くの種類の生き物が暮らしています。また、川や水辺は生き物の移動ルートとしても重要で、特に朝霞調節池とその周辺は優れた自然環境です。点在する屋敷林や林も、森や草原を好む生き物たちのすみかになっています。

まちの景観・ 郷土の風景を 形成するみどり

荒川、新河岸川、朝霞調節池は、豊かで魅力的なみどりとして親しまれています。こうした水辺や田園の風景が、内間木地域らしい美しい景観をつくっています。

暮らしに息づく 農業活動の場となる みどり

まとまった農地が残っており、水田や畑として利用されています。しかし、休耕地も多く見られるようになっています。

健康づくりの 場となる みどり

荒川沿いには、サイクリングやジョギング、散歩ができるルートが広く整備されています。新河岸川の左岸には遊歩道がありませんが、今後、新たな道路の整備に合わせて、この地域を縦断する歩道の整備が期待されています。

身近な 遊び場となる みどり

現在、公園は少ない状況ですが、川沿いの広い空間や神社・お寺の境内などがあります。今後は、新たな道路の整備に合わせて内間木公園拡張整備の構想があるため、地域の中心となる公園づくりが期待されています。

にぎわいや 交流の場となる みどり

内間木公園や神社・お寺の境内は、お祭りやイベントを開くための広場として活用できると考えられます。

防災拠点 となるみどり

内間木公園の拡張整備において、災害時にも役立つ機能が備わることが期待されています。

内間木地域のみどりの方針

主な課題

- 《身近な公園の不足》 この地域は公園が少なく、市民アンケートでも、身近な憩いの場がほしいという声が最も多く挙がっています。
- 《水辺空間の柔軟な活用》 荒川や新河岸川、朝霞調節池などの豊かな自然環境があります。自然を守りながら、遊び場や自然との触れ合いの場、健康づくりの場として、もっと自由に活用する工夫が求められています。
- 《田園景観の保全と活用》 休耕地が比較的多くあります。この地域ならではの田園風景や、そこに暮らす生き物たちを守りつつ、使われていない農地を活用していくことが課題となっています。
- 《水害リスクへの備え》 川に近く土地が低いため、大雨による浸水のリスクが高い地域です。また、災害時に安全を確保できる場所が不足しています。
- 《地面が覆われることによる環境への影響》 近年、工場などが増え、地面がアスファルトなどで覆われることが多くなりました。そのため、夏場の地面の温度上昇や、大雨の際に雨水が浸み込まず、一気に流れ出してしまうことへの対策が必要です。

主な取組

① 暮らしを支えるみどりの拠点とネットワークをつくる

- a. 公園が不足している現状に対し、内間木公園拡張整備に向けた検討を進めます。住民参加のワークショップなどを通じて意見を収集し、整備に際しては地域の交流拠点や防災拠点となるように検討します。
- b. バイパス整備などに伴う周辺地域の開発においては、内間木公園など地域のみどりの拠点とのつながりを大切にし、並木道や公園など、みどりの空間を充実させるよう働きかけます。

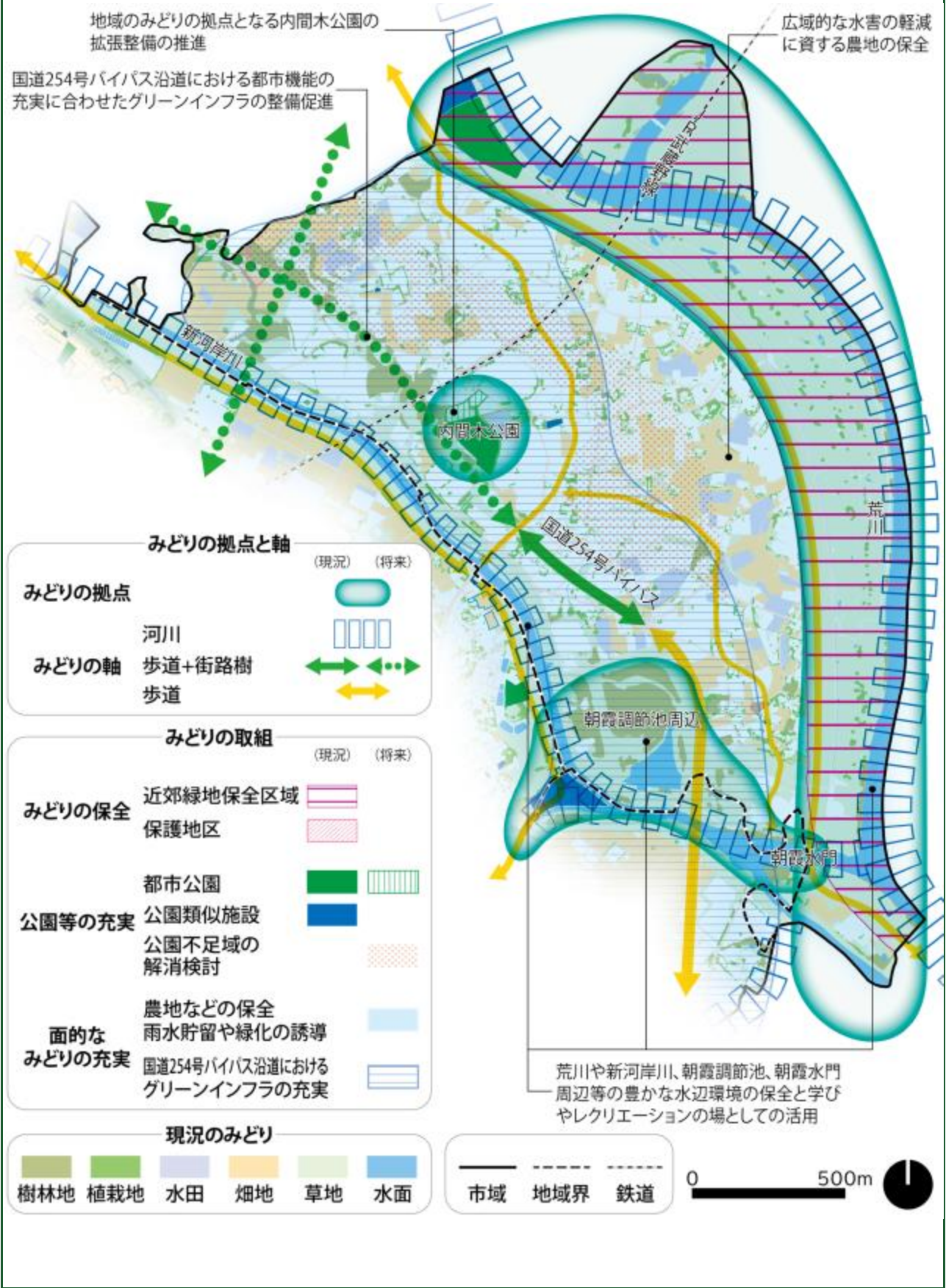
② 田園と水辺の景観を守り・生かす

- a. 農業の担い手を育てたり、農作業の支援を行ったりするとともに、農地バンクの活用を図るなど、農地が減らない取り組みを進めます。
- b. 地域の財産である田園風景や水辺の環境を守りながら、その魅力を市民の皆さんが楽しめるような活用方法を考えます。
- c. 荒川や新河岸川、朝霞調節池、朝霞水門周辺の豊かな自然景観を守りながら生かし、地域の中の人も外の人も楽しめる、魅力的な水辺空間づくりを進めます。

③ 災害に強く、環境にやさしい地域をつくる

- a. 開発が行われる場合は雨水を貯める機能を確保してもらいつつ、田んぼや調節地など、雨水を一時的に貯める機能を生かし、水害のリスクを減らすまちづくりを考えます。
- b. バイパス整備が行われる際には、豊かな自然環境が失われることのないよう、道路区域内への緑地帯や雨水を貯める施設の設置について働きかけます。
- c. バイパス整備などに伴う周辺地域の開発においては、グリーンインフラを生かし、環境や景観に配慮した取組が進むよう検討します。

みどりの方針図



1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

北部地域

面積	人口	緑被率		
3.4km ²	30,979人	31.3%		
問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	-0.02 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>		
	d.お住いの近くの公園に満足している	-0.12 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>		
	g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	-0.18 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>		
	h.良いまちの景観がつけられている	-0.02 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>		
問2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川(331件)、新河岸川(22件)、わくわくどーむ(9件)、田島緑地(9件)、北割公園(3件)、北朝霞公園(2件)			
問3 将来に残したいと思うみどり	黒目川(154件)、新河岸川(6件)、わくわくどーむ(2件)、田島緑地(2件)、北割公園(2件)、北朝霞公園(2件)			
問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	29.3回(市全体 30.9回)			
問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	-0.14 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.02 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>
	c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.04 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	-0.39 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>
問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(16.5%)	【2位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる(15.4%)		
	【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる(14.3%)	【4位】様々なレクリエーションを楽しめるように大きな公園を充実させる(8.1%)		
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない(11.7%)	【2位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(10.5%)		
	【3位】道路などの清掃活動(9.2%)	【4位】市民農園や近所の空き地を借りた野菜や草花の生産(7.2%)		
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】こどもの遊び場や散策の場となるみどり(¥151)	【2位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり(¥151)		
	【3位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり(¥135)	【4位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥121)		

市民アンケート調査

1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の多様度 (%)	豊か・魅力 と感ずるみ どりの目 数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路・ 歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現状公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの遊 憩有効面積 (㎡/人)	水害時に おける一人 あたりの避難 有効面積 (㎡/人)
北部	北原1丁目	1.02	1.33	33.96	0.87	22.29	8.14	8.5%	105.4	-3.61	5.05	4.45	3.58
	北原2丁目	0.70	1.64	34.42	0.29	19.03	0.52	0.0%	137.9	-3.85	2.11	2.97	2.97
	西原1丁目	0.29	2.01	34.54	0.22	11.65	0.49	2.9%	160.7	-4.77	3.71	3.31	3.15
	西原2丁目	0.58	1.69	34.44	0.26	17.07	1.90	2.4%	55.8	-4.48	1.95	2.62	2.62
	浜崎1丁目	0.53	1.72	34.42	0.32	18.40	0.62	1.1%	164.4	-2.59	6.86	4.92	3.06
	浜崎2丁目	0.79	1.26	33.62	1.12	28.93	2.30	13.6%	163.7	-2.64	10.64	8.38	2.40
	浜崎4丁目	0.78	1.16	33.61	1.25	32.10	2.47	13.0%	45.3	-2.35	10.72	15.14	0.78
	浜崎3丁目	0.60	1.37	33.86	0.76	24.53	27.33	3.6%	201.0	-1.84	13.72	15.23	3.20
	朝志ヶ丘1丁目	0.82	1.50	33.60	1.02	28.97	1.42	0.0%	130.2	-10.06	0.82	1.36	1.36
	朝志ヶ丘2丁目	0.99	1.16	33.97	0.84	28.99	0.97	1.0%	12.8	-5.77	0.72	0.79	0.79
	朝志ヶ丘3丁目	0.87	1.43	34.59	0.38	26.83	0.86	4.1%	26.6	-6.56	0.77	1.72	1.72
	朝志ヶ丘4丁目	0.72	1.57	34.54	0.38	21.73	0.85	4.9%	9.3	-7.51	0.48	1.09	1.09
	宮戸1丁目	0.56	1.78	33.28	0.59	15.97	1.10	2.1%	35.7	-1.21	2.02	3.04	1.60
	宮戸2丁目	0.96	1.31	34.25	0.78	25.64	1.37	7.8%	26.3	-4.85	0.77	0.54	0.54
	宮戸3丁目	0.87	1.07	33.59	1.18	33.65	3.04	11.6%	60.4	-2.94	2.09	1.15	0.42
	宮戸4丁目	0.93	1.15	33.56	1.23	31.05	2.66	9.7%	115.2	-3.79	1.33	3.04	0.35
	田島1丁目	0.40	1.32	33.70	0.73	24.69	52.47	3.6%	210.2	2.48	27.26	14.23	4.58
	田島2丁目	0.45	1.00	32.63	1.95	37.59	17.82	6.5%	167.4	0.59	22.74	11.10	1.60
	大字浜崎の一部	0.62	0.53	32.15	2.85	39.77	26.05	42.5%	79.7	1.02	26.59	32.03	1.18
	大字浜崎の一部	0.45	1.07	32.53	1.61	35.52	84.29	10.9%	97.5	0.70	14.97	13.27	1.12
	大字宮戸の一部	0.45	0.59	31.75	2.79	41.59	9.74	25.7%	58.3	0.52	5.17	19.93	0.65
大字田島の一部	0.53	0.76	33.07	2.01	28.90	22.33	30.5%	88.7	3.02	33.58	23.51	0.95	
地域全体		0.68	1.18	33.35	1.33	29.40	10.74	12.2%	88.8	-2.15	9.30	9.86	1.43
朝霞市全域		0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	住宅などが多いため、他の地域と比べると、雨水が地面にしみ込みにくい。しかし、農地や公園などの土がある場所ではよくしみ込むため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	建物や農地が多いため、全体的に地面の温度が高いです。一方で、川沿いや木々のある場所はクールアイランドになっていて、まちの暑さを和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	斜面林や川沿いの草地などは、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林では老木が増えたり、ナラ枯れという病気が増えたりしていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	新河岸川と黒目川には、たくさんの種類の生き物が生息しており、農地と川が一体になって生き物のすみかを形成しています。まちなかでも、小さなみどりが生き物の暮らす場所になっています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川や公園、畑、並木道などが地域のみどりとして親しまれていますが、みどりの風景が少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	宮戸から田島にかけて、まとまった農地が広がっており、まちなかにも小さな農地が点在しています。宮戸3丁目では、斜面林と一緒に水田をどのように保全していくか検討されています。
健康づくりの場となるみどり	川沿いの遊歩道はジョギングや散歩に使われており、健康づくりの大切な場所です。一方で、駅から離れた場所では、歩きやすい歩道が十分につながりません。
身近な遊び場となるみどり	市街地では、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘から宮戸付近で不足していますが、新しくみやど公園が整備されました。また、宮戸の緑地の遊び場として活用できる可能性があります。
にぎわいや交流の場となるみどり	まちなかには、イベントができるような広場が足りません。今ある公園などをうまく活用して、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	宮戸から朝志ヶ丘にかけて、災害時の拠点となるような公園が不足しています。

1章 計画の基本的事項

2章 みどりの現状と課題

3章 みどりの将来像

4章 みどりの指針

5章 みどりの取組

6章 地域別の取組

7章 計画の実現に向けて

参考資料集

北部地域のみどりの方針

主な課題

- 《身近な公園の不足》 人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝志ヶ丘や宮戸エリアで不足しています。市民アンケートでも、もっと公園がほしいという声が多く挙がっています。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 みどり豊かで安全な歩道を望む声が多くあります。駅から離れた地域などで、誰もが安心して歩ける歩道の整備が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を守りながら、魅力を高め、次の世代へ引き継いでいくことが求められます。
- 《ヒートアイランド現象への対策》 住宅が密集しているため、ヒートアイランド現象を和らげるためのみどりが重要になっています。
- 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園について、朝志ヶ丘や宮戸エリアでは不足しています。
- 《樹林地の保全》 貴重な自然である樹林地ですが、老木が増えたり、ナラ枯れという病気の被害が広がったりしています。樹林地を残すことに加え、将来にわたってどう手入れをしていくかが課題です。
- 《農業景観の保全》 黒目川や新河岸川の沿岸には、美しい田園風景が広がっています。これらは暮らしを支える大切な場所であり、保全が望まれます。また、宮戸の緑地周辺には、斜面の林と水田、川がセットになった貴重な風景が残されています。昔ながらの農業の風景として、守っていくことが求められます。

主な取組

① 暮らしの質を高める身近なみどりを充実させる

- a. 身近な公園が不足している地域では、市民緑地制度や立体都市公園制度など、新しい仕組みの導入を検討し、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場をつくります。
- b. 遊びや交流の拠点となる公園を確保するため、(仮称)浜崎ふれあい公園の用地として取得した土地を含め、活用を検討します。
- c. 新しい道路の整備にあわせて、安全で歩くことが楽しくなるようなみどりのネットワークをつくります。
- d. 雨水を地面に浸み込ませたり、生き物のすみかになったりする、まちなかの農地を守ります。

② 黒目川・新河岸川を中心とした自然環境を守り・楽しむ

- a. 公園が少ない北部地域において、黒目川と新河岸川は貴重なみどりの空間です。保全活動を支援するとともに、自然観察会やイベントなどを通じて、地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深めるきっかけをつくります。
- b. 黒目川沿いの農地は、農業とふれあえる貴重な場所です。次の世代へ引き継いでいくため、保全活動を支援します。
- c. 新河岸川周辺の林や田園風景をひとつのまとまりとして捉え、その豊かな自然環境を次の世代へ引き継ぐための活動を支援します。

③ 持続可能な都市環境をつくる

- a. 駅前広場や公共空間の整備においては、ひとが主役のウォークアブルな空間や、交流の場づくりを進めます。
- b. ヒートアイランド現象の緩和や地下水を蓄えるなど、グリーンインフラの視点を取り入れたまちづくりを目指します。
- c. ナラ枯れ等の課題を抱える樹林地については、専門家の意見を取り入れながら、将来にわたって良好な状態を保てるような管理方法を考えます。

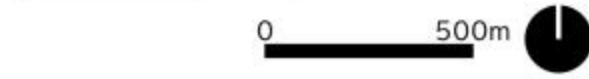
みどりの方針図



みどりの取組		(現況)	(将来)
みどりの保全	特別緑地保全地区		
	保護地区		
	生産緑地地区		
公園等の充実	都市公園		
	公園類似施設		
	公園不足域の解消検討		
	市民農園		
面的なみどりの充実	緑化推進		
	雨水浸透貯留の推進		(台地面)
	農地などの保全		(低地面)
	雨水貯留や緑化の推進		
	駅周辺のウォークアブル空間の整備		

みどりの拠点と軸		(現況)	(将来)
みどりの拠点			
河川			
みどりの軸	歩道+街路樹		
	歩道		

現況のみどり					
樹林地	植栽地	水田	畑地	草地	水面



1章 計画の基本的事項

2章 みどりの現状と課題

3章 みどりの将来像

4章 みどりの指針

5章 みどりの取組

6章 地域別の取組

7章 計画の実現に向けて

参考資料集

東部地域

面積	人口	緑被率				
3.6km ²	30,883人	37.3%				
問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.22 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>				
	d.お住いの近くの公園に満足している	-0.03 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>				
	g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.01 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>				
	h.良いまちの景観がつけられている	0.16 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>				
問2 豊か・魅力的と感じるみどり	黒目川(331件)、城山公園(70件)、新河岸川(22件)、越戸川(12件)、田島緑地(9件)、水久保公園(6件)、朝霞駅周辺(5件)、旧高橋家住宅(4件)、東圓寺(3件)					
問3 将来に残したいと思うみどり	黒目川(158件)、城山公園(85件)、根岸台の斜面林(10件)、新河岸川(6件)、柵塚古墳歴史広場(4件)、水久保公園(4件)、朝霞駅周辺(3件)、旧高橋家住宅(3件)、越戸川(3件)、根岸台自然公園(3件)					
問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	31.1回(市全体 30.9回)					
問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.07 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	-0.05 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>		
	c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.16 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	0.34 <small>(そう思わない-1.0~1.0 思う)</small>		
問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(18.2%)		【2位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる(16.8%)			
	【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる(13.3%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する(7.4%)			
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(12.4%)		【2位】道路などの清掃活動(11.3%)			
	【3位】全てに参加したことがない(10.6%)		【4位】河川の清掃や草刈り(7.0%)			
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり(¥142)		【2位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり(¥129)			
	【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥128)		【4位】こどもの遊び場や散策の場となるみどり(¥112)			

市民アンケート調査

- 1章 計画の基本的事項
- 2章 みどりの現状と課題
- 3章 みどりの将来像
- 4章 みどりの指針
- 5章 みどりの取組
- 6章 地域別の取組
- 7章 計画の実現に向けて
- 参考資料集

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様度 (%)	豊か・魅力 と 感じるみ どりの目 答数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散策路・ 歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現状公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 有効面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの遊 遊有効面積 (㎡/人)	水害時にお ける一人あ たりの避難 有効面積 (㎡/人)
東部	仲町1丁目	0.81	1.50	34.53	0.35	20.91	0.74	4.3%	15.9	-5.86	0.55	1.10	1.10
	仲町2丁目	0.69	1.70	33.97	0.87	24.46	2.72	8.0%	259.4	-6.65	1.22	0.85	0.85
	根岸台1丁目	0.98	1.34	34.27	0.70	25.82	1.55	11.5%	7.7	-6.11	0.53	1.12	1.12
	根岸台2丁目	1.31	0.95	33.11	1.94	36.14	4.05	27.3%	86.1	-2.14	3.96	2.97	4.03
	根岸台3丁目	0.59	1.47	33.96	0.81	28.08	1.53	2.4%	126.8	-3.57	9.40	6.78	7.45
	根岸台4丁目	1.25	0.97	33.03	1.85	41.11	3.25	17.7%	80.7	-1.69	4.00	2.02	2.34
	根岸台5丁目	1.04	1.38	33.81	1.04	27.96	3.17	17.0%	154.3	-4.14	0.98	0.54	0.54
	根岸台6丁目	1.05	1.38	33.91	1.08	25.89	2.42	18.7%	34.9	-5.35	1.34	0.98	0.98
	根岸台7丁目	1.27	1.01	33.26	1.77	37.86	4.48	23.9%	24.3	-2.65	3.00	2.60	2.60
	根岸台8丁目	1.31	0.87	32.71	2.28	41.79	5.67	19.5%	57.3	-1.69	5.54	3.77	2.88
	岡1丁目	0.98	1.34	33.99	0.99	26.07	2.20	16.4%	46.5	-4.57	1.65	2.91	2.76
	岡2丁目	1.05	1.06	32.99	1.76	38.26	2.66	5.1%	115.9	-0.81	15.01	15.72	0.76
	岡3丁目	0.91	1.07	33.12	1.49	37.59	20.15	6.7%	81.3	-0.72	12.59	8.20	3.61
	大字岡	0.57	0.65	32.43	2.32	35.45	45.77	28.6%	125.8	2.12	41.06	41.26	0.47
	大字溝沼の一部	0.40	1.22	33.23	1.13	25.22	37.02	9.5%	39.1	0.23	23.00	21.42	0.57
	地域全体	0.90	1.01	33.11	1.67	33.85	13.53	17.6%	81.9	-1.55	30.04	31.46	12.76
朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95	

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	段丘の上では家が増えていますが、農地などの自然も残っており、これらが混ざり合っている地域です。畑などの土がある場所は、雨水がよく浸みこむため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	住宅が増えて地面の温度が高くなりやすい地域ですが、公園や斜面林などはクールアイランドになっていて、まちの暑さを和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	段丘の縁にある斜面林や、広く残っている農地などは、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林では老木が増えたり、ナラ枯れという病気が増えたりしていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	住宅が増える一方で、農地や林が点在し、いろいろな環境が混ざり合っています。そのため、多くの種類の生き物が暮らしており、生き物の移動ルートとしての役割も果たしています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川は、地域で最も魅力的なみどりとして親しまれています。ほかにも、公園や畑、並木道、里山などが、東部地域らしい美しい風景をつくっています。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	岡や根岸台には、まとまった農地が広がっており、それ以外の場所にも生産緑地が点在しています。身近な場所で農業に触れることができる地域です。
健康づくりの場となるみどり	黒目川や公園、斜面林など、みどり豊かな環境に恵まれています。これらを結ぶ散策ルートもありますが、歩道が途切れている場所などもあり、整備が必要です。
身近な遊び場となるみどり	市街地では、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、特に朝霞駅の周辺で不足しています。新しい公園づくりや、今ある樹林地を遊び場として活用していくことが期待されています。
にぎわいや交流の場となるみどり	市街地、特に朝霞駅の周辺には、イベントができるような広場が足りません。今ある公園などをうまく活用して、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	災害時の拠点となるような公園が不足しています。

1章 計画の基本的事項

2章 みどりの現状と課題

3章 みどりの将来像

4章 みどりの指針

5章 みどりの取組

6章 地域別の取組

7章 計画の実現に向けて

参考資料集

東部地域のみどりの方針

主な課題

- 《農地や斜面林と調和したまちづくり》 宅地化が進む中で、崖線と呼ばれる地形を構成する斜面林や畑など、東部地域ならではの景色をどう守り、まちづくりと両立させるかが大きな課題です。
- 《都市環境の保全》 宅地化が進む中でも、みどりが持っている様々な機能を維持していく必要があります。
- 《みどりのネットワークの形成》 点在する公園や緑地を、快適な遊歩道でつなぎ、まち歩きを楽しめるようなみどりのネットワークをつくることが求められています。
- 《中心市街地における憩いの空間づくり》 多くの人が集まる朝霞駅周辺は、公園が不足しています。こどもたちの遊び場や、多世代が交流できる広場の確保が求められます。
- 《防災機能の強化》 身近な防災拠点となる公園について、仲町から根岸台 1 丁目・5 丁目・6 丁目付近において不足しています。

主な取組

①景観資産を守り、まちの安全性と魅力を高める

- a. 住みよい環境をつくっている崖線の斜面林や農地などの風景を守っていくため、その大切さを共有していきます。
- b. 崖線には、豊かな自然であることを象徴する湧水が多く残っています。この湧水を守るために、台地の上では、雨水が地面にしみ込みやすくなるようにします。開発が行われる際には、雨水を一時的に貯めたりしみこませたりする施設の設置を働きかけて湧水を守るとともに、大雨による浸水被害を減らすまちづくりを進めます。
- c. 旧高橋家住宅など、地域のみどりと一体になった歴史的な建物を守ります。また、地域の歴史や文化を感じられる散策ルートなどを充実させ、地域の魅力にふれ、誇りを持つような機会を増やします。

②暮らしを支える身近なみどりを創出する

- a. 身近な公園が不足している駅周辺の地域では、今ある公園を充実させることや、市民緑地制度や立体都市公園制度などの新しい仕組みの導入を検討し、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場をつくります。
- b. 民間の開発と連携して、オープンスペースを確保できないか検討します。
- c. ヒートアイランド現象の緩和や、地下水を蓄えるなど、グリーンインフラの視点を取り入れたまちづくりを目指します。

③みどりのある暮らしの実践

- a. 農地や樹林地、歴史的な建物を生かし、農業体験や自然学習など、身近な場所でみどりに触れる機会を充実させます。
- b. 地産地消や、公園管理活動への参加、自宅でのガーデニングなど、みどりを楽しむ暮らしを広げる取組を進めます。

みどりの方針図



1章 計画の基本的事項

2章 みどりの現状と課題

3章 みどりの将来像

4章 みどりの指針

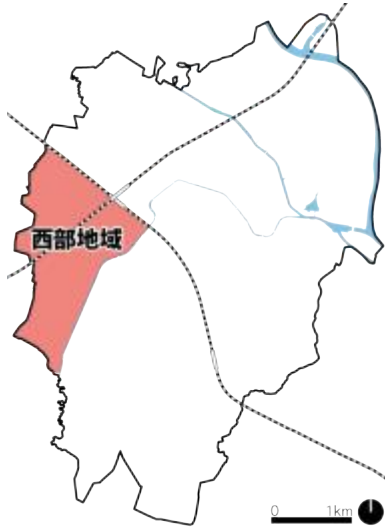
5章 みどりの取組

6章 地域別の取組

7章 計画の実現に向けて

参考資料集

西部地域

面積	人口	緑被率		
2.2km ²	29,563人	18.9%		
問1 みどりに対する 満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの 豊かさや魅力に満足してい る	-0.10 <small>(そう思わない-1.0~ 1.0 思う)</small>		
	d.お住いの近くの公園に満足 している	-0.10 <small>(そう思わない-1.0~ 1.0 思う)</small>		
	g.災害時に避難地や活動拠 点として機能する公園があ る	-0.14 <small>(そう思わない-1.0~ 1.0 思う)</small>		
	h.良いまちの景観がつくられ ている	-0.10 <small>(そう思わない-1.0~ 1.0 思う)</small>		
問2 豊か・魅力的と 感じるみどり	黒目川(331件)、島の上公園(7件)、南割公園(6件)			
問3 将来に残したいと 思うみどり	黒目川(154件)、島の上公園(10件)、南割公園(7件)、 朝霞台駅の木々(2件)、弁財公園(2件)			
問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	21.9回(市全体 30.9回)			
問5 近くの公園の 評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充 実している	-0.07 <small>(そう思わない-1.0~ 1.0 思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充 実している	-0.01 <small>(そう思わない-1.0~ 1.0 思う)</small>
	c.公園の植物がよい景観をつ くっている	0.07 <small>(そう思わない-1.0~ 1.0 思う)</small>	h.近くの住民によく利用さ れている	0.43 <small>(そう思わない-1.0~ 1.0 思う)</small>
問6 みどりの まちづくりに 必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に 歩ける歩道空間を整備する(18.6%)		【2位】だれもが気軽に利用できるよう に、小規模でも身近な公園や緑地 を充実させる(15.3%)	
	【3位】健康づくりや自然とのふれあいの 場となる川沿いの散歩道を充実させる (12.4%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公 園的空間を整備し運営する(9.3%)	
問7 緑化活動等への 参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない (13.0%)		【2位】道路などの清掃活動(9.7%)	
	【3位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑 化(9.3%)		【4位】市民農園や近所の空き地を借 りた野菜や草花の生産(8.0%)	
問10 みどりを守るための 仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化 を緩和するみどり(¥182)		【2位】日射の緩和等により都市の気 温上昇を緩和するみどり(¥141)	
	【3位】避難地や防災拠点として災害時の 生活を復旧・支援するみどり(¥121)		【4位】水害の軽減など自然災害によ る被害を軽減するみどり(¥118)	

市民アンケート調査

- 1章 計画の基本的事項
- 2章 みどりの現状と課題
- 3章 みどりの将来像
- 4章 みどりの指針
- 5章 みどりの取組
- 6章 地域別の取組
- 7章 計画の実現に向けて
- 参考資料集

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の 多様性 (%)	豊か・魅力 と 感じるみ どりの目 数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散歩路・ 歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現状公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時に おける一人 あたりの遊 楽有効面積 (㎡/人)	水害時にお ける一人あ たりの避難 有効面積 (㎡/人)
西部	東弁財1丁目	0.18	2.17	34.67	0.09	11.45	0.21	0.0%	293.4	-9.39	1.95	1.60	1.60
	東弁財2丁目	0.57	1.45	34.06	0.73	24.17	2.29	9.3%	74.0	-5.68	6.94	2.17	1.43
	東弁財3丁目	0.67	1.64	34.27	0.26	21.49	1.20	0.6%	70.3	-5.16	3.23	3.11	2.10
	西弁財1丁目	0.51	1.77	34.58	0.13	16.89	1.21	0.0%	101.3	-4.61	1.07	1.51	1.51
	西弁財2丁目	0.35	2.04	34.73	0.12	14.71	0.23	0.0%	257.4	-8.92	0.59	1.62	1.62
	三原1丁目	0.64	1.71	34.42	0.42	23.36	1.24	3.1%	70.6	-6.61	0.39	1.59	1.59
	三原2丁目	0.72	1.59	34.46	0.36	24.57	0.72	2.8%	52.3	-7.95	0.57	0.93	0.93
	三原3丁目	0.91	1.32	34.12	0.62	29.13	1.05	3.8%	61.2	-6.57	0.76	0.84	0.84
	三原4丁目	0.62	1.52	34.65	0.20	25.69	0.37	0.0%	28.0	-7.76	1.04	1.02	1.02
	三原5丁目	0.72	1.58	34.20	0.60	23.73	1.40	9.1%	33.3	-4.56	0.56	0.71	0.71
	泉水1丁目	0.74	1.70	34.27	0.79	19.83	2.12	11.6%	103.8	-2.08	3.22	2.27	3.63
	泉水2丁目	0.83	1.44	33.80	1.13	25.97	2.71	15.8%	42.3	-3.54	5.68	3.53	3.32
	泉水3丁目	0.75	1.55	33.89	0.97	26.62	1.53	4.2%	57.8	-3.85	3.94	4.20	1.78
	膝折町3丁目の一部	0.78	1.45	33.96	0.89	25.95	14.65	5.0%	16.3	-1.58	7.56	2.09	3.88
	膝折町4丁目の一部	0.48	1.69	33.93	0.72	22.79	21.96	2.0%	56.1	-3.57	6.98	3.87	5.14
	大字浜崎の一部	0.70	0.51	32.07	3.11	40.82	41.28	56.7%	46.9	0.35	10.96	4.07	0.43
	大字溝沼の一部	0.78	0.82	32.58	1.97	31.69	56.08	27.7%	49.0	0.24	8.33	5.85	2.17
地域全体	0.69	1.50	33.99	0.80	25.04	9.17	8.0%	65.9	-4.55	3.58	2.64	2.02	
朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95	

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を 支えるみどり	段丘の上では建物や住宅が多く、雨水が地面に浸みこみにくい状態です。一方、畑や公園などの土がある場所ではよく浸み込むため、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を 抑えるみどり	建物や住宅が多いため、全体的に地面の温度が高いです。しかし、黒目川沿いは涼しい風の通り道になっており、斜面林など木々がある場所はクールアイランドとして、ヒートアイランド現象を和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に 貢献するみどり	建物や住宅が多いため、みどりの量が少なく、二酸化炭素を吸収するチカラが弱いです。しかし、段丘の斜面林や黒目川の草地、浜崎・溝沼などの農地は、二酸化炭素を吸収する大切な役割を果たしています。
生き物の 生息空間となる みどり	黒目川にはたくさんの種類の生き物が生息しています。そのほかに斜面林や公園・学校の木々、小さな畑などがあり、崖の下には湧き水も出るため、まちの中にも小さな生き物のすみかがつくられています。
まちの景観・ 郷土の風景を 形成するみどり	黒目川は、豊かで魅力的なみどりとして最も人気があります。ほかにも島の上公園や南割公園、畑、並木道、里山、個人の庭のみどりなども、地域の風景として親しまれています。一方で、みどりの風景が少ない場所もあります。
暮らしに息づく 農業活動の場となる みどり	浜崎から溝沼にかけて、まとまった農地が広がっています。また、泉水などのまちなかにも小さな農地が点在し、みどりが少ない三原周辺にも農地が残されています。
健康づくりの 場となる みどり	黒目川沿いは、ジョギングや散歩のコースとして親しまれています。北朝霞駅の周辺や大きな通りでは歩道が整備されていますが、駅から離れた場所では十分に整備されていない状況です。
身近な 遊び場となる みどり	まちなかでは、人口の増加に公園の整備が追いついておらず、全体的に不足しており、特に三原から東弁財にかけて不足しています。黒目川などを遊び場として活用していくことが期待されています。
にぎわいや 交流の場となる みどり	イベントができるような広場が足りません。新しい場所をつくることや、今ある公園などをうまく活用して、交流の場を充実させることが大切です。
防災拠点となるみどり	三原では、災害時の拠点となるような公園が不足しています。

1章 計画の
基本的事項

2章 みどりの
現状と課題

3章 みどりの
将来像

4章 みどりの
指針

5章 みどりの
取組

6章 地域別の
取組

7章 計画の
実現に向けて

参考資料集

西部地域のみどりの方針

- 《都市を支えるグリーンインフラの充実》 建物や道路などが多く、雨水が地面にしみ込みにくいいため、大雨の際に雨水が一気に流れ出す心配があるほか、ヒートアイランド現象も課題となっています。グリーンインフラの考え方を取り入れたまちづくりが重要になります。
- 《身近な公園の不足》 市民アンケート結果においても公園に対する満足度が低く、量と質を充実させていく必要があります。特に三原や東弁財エリアでは公園が不足しており、身近な公園がほしいという声が非常に強くなっています。
- 《安全で快適な歩行者ネットワークの構築》 駅から離れた地域では歩道が十分に整備されておらず、誰もが安全に歩ける空間の確保が課題です。
- 《黒目川の保全と活用》 朝霞のみどりを象徴する黒目川は、その優れた自然環境を守りながら、魅力を高め、次の世代へ引き継いでいくことが求められます。
- 《防災機能の強化》 災害時の拠点となる公園が不足しており、特に三原などでその課題が大きくなっています。
- 《市民参加のきっかけづくり》 みどりの活動に参加したことがある人が少ない傾向にあります。みどりへの愛着を育み、市民の皆さんが主役となってまちづくりに参加するきっかけが必要です。

主な課題

① グリーンインフラでまちの環境を良くする

- a. 夏の暑さを和らげたり、地下水を蓄えたりするなど、グリーンインフラの視点を取り入れたまちづくりを目指します。
- b. 公園などの公共施設において、雨水を地面にしみ込ませる機能を充実させます。また、民間事業者等が行う開発においても、雨水を貯めたりしみ込ませたりする施設をつくるよう働きかけるなど、グリーンインフラの取組を進めます。

② 暮らしを支える身近なみどりをつくる・育てる

- a. 身近な公園が不足しているため、今ある公園を充実させることや、市民緑地制度などの新しい仕組みの導入を検討しながら、誰もが気軽に立ち寄れる憩いの場の充実を目指します。
- b. 新たな道路の整備にあわせて、歩道や街路樹を充実させ、誰もが安全で快適に歩きたくなるまちづくりを目指します。

③ 市民協働でみどりを育む文化を醸成する

- a. 公園が少ない西部地域において、黒目川は貴重なみどりの空間です。保全活動を支援するとともに、自然観察会やイベントなどを通じて、地域の自然の価値を再発見し、みどりへの愛着を深めるきっかけをつくります。
- b. 公園の清掃や花壇づくりなどのボランティア活動を支援し、協力して維持管理を行うふれあいの輪を広げていきます。
- c. みどりの活動に関心のある人が集まり、楽しく学べるワークショップなどを開催し、地域のコミュニティを盛り上げます。

主な取組

みどりの方針図



みどりの拠点と軸

みどりの拠点

河川

みどりの軸

歩道+街路樹 (現況) (将来)

歩道

みどりの取組

みどりの保全

特別緑地保全地区 (現況)

保護地区

生産緑地地区

公園等の充実

都市公園 (現況) (将来)

公園類似施設

公園不足域の解消検討

市民農園

面的なみどりの充実

農地などの保全、雨水貯留や緑化の推進 (台地面)

緑化推進、雨水浸透貯留の推進 (低地面)

駅周辺のウォークアブル空間の整備

現況のみどり

樹林地 植栽地 水田

畑地 草地 水面

湧水 地形のひだ (崖線)

市域 地域界 鉄道



1章 計画の基本的事項

2章 みどりの現状と課題

3章 みどりの将来像

4章 みどりの指針

5章 みどりの取組

6章 地域別の取組

7章 計画の実現に向けて

参考資料集

南部地域

面積	人口	緑被率				
5.3km ²	53,204人	26.6%				
問1 みどりに対する満足度 (回答の平均)	b.お住いの近くのみどりの豊かさや魅力に満足している	0.41 <small>(そう思わない1.0~1.0 思う)</small>				
	d.お住いの近くの公園に満足している	0.29 <small>(そう思わない1.0~1.0 思う)</small>				
	g.災害時に避難地や活動拠点として機能する公園がある	0.22 <small>(そう思わない1.0~1.0 思う)</small>				
	h.良いまちの景観がつけられている	0.34 <small>(そう思わない1.0~1.0 思う)</small>				
問2 豊か・魅力的と感じるみどりの	黒目川(331件)、青葉台公園(116件)、シンボルロード(115件)、朝霞の森(106件)、市役所周辺(48件)、朝霞中央公園(43件)、滝の根公園(35件)、公園通り(29件)、基地跡地(15件)、朝霞駅周辺(5件)、広沢の池(3件)					
問3 将来に残したいと思うみどりの	朝霞の森(158件)、黒目川(154件)、青葉台公園(55件)、シンボルロード(42件)、基地跡地(34件)、滝の根公園(27件)、公園通り(14件)、朝霞中央公園(13件)、市役所周辺(9件)、朝霞駅周辺(3件)、広沢の池(3件)					
問4 年間公園利用頻度 (回答の平均)	35.9回(市全体 30.9回)					
問5 近くの公園の評価 (回答の平均)	a.ベンチなどの休憩施設が充実している	0.19 <small>(そう思わない1.0~1.0 思う)</small>	b.安全に遊べる遊具が充実している	0.16 <small>(そう思わない1.0~1.0 思う)</small>		
	c.公園の植物がよい景観をつくっている	0.37 <small>(そう思わない1.0~1.0 思う)</small>	h.近くの住民によく利用されている	0.51 <small>(そう思わない1.0~1.0 思う)</small>		
問6 みどりのまちづくりに必要な施策 (上位を表示)	【1位】道路においてみどり豊かで安全に歩ける歩道空間を整備する(18.8%)		【2位】だれもが気軽に利用できるように、小規模でも身近な公園や緑地を充実させる(14.0%)			
	【3位】健康づくりや自然とのふれあいの場となる川沿いの散歩道を充実させる(11.8%)		【4位】民間の協力を得て、魅力的な公園的空間を整備し運営する(8.2%)			
問7 緑化活動等への参加経験 (回答者における割合)	【1位】全てに参加したことがない(14.5%)		【2位】道路などの清掃活動(10.2%)			
	【3位】生け垣や花壇など自宅の庭の緑化(10.1%)		【4位】身近な生き物観察やみどりの調査(6.5%)			
問10 みどりを守るための仮定の支払額 (支払額の平均)	【1位】CO ₂ の吸収減となり地球温暖化を緩和するみどり(¥156)		【2位】水害の軽減など自然災害による被害を軽減するみどり(¥142)			
	【3位】日射の緩和等により都市の気温上昇を緩和するみどり(¥118)		【4位】避難地や防災拠点として災害時の生活を復旧・支援するみどり(¥115)			

市民アンケート調査

- 1章 計画の基本的事項
- 2章 みどりの現状と課題
- 3章 みどりの将来像
- 4章 みどりの指針
- 5章 みどりの取組
- 6章 地域別の取組
- 7章 計画の実現に向けて
- 参考資料集

みどりのカルテ

地域	町丁目	雨水の 地表面 浸透量 (mm/日)	雨水の 地表面 排水量 (mm/日)	地表面 温度 (℃)	炭素 固定量 (t/ha/年)	生物指標 の多様度 (%)	豊か・魅力 と感ずるみ どりの目 数 (件)	農業活動 空間 面積率 (%)	散歩路・ 歩道の 長さ (m/ha)	必要公園面 積に対する 現状公園の 過不足面積 (ha)	イベント開 催に供する オープンス ペース面積 (㎡/人)	非水害時 における一 人あたりの遊 憩有効面積 (㎡/人)	水害時にお ける一人あ たりの避難 有効面積 (㎡/人)
南部	本町1丁目	0.70	1.61	34.34	0.40	20.62	1.71	2.6%	97.4	-3.06	3.07	4.20	4.19
	本町2丁目	0.68	1.68	34.71	0.14	17.19	0.47	0.0%	73.6	-6.44	3.11	2.92	2.92
	本町3丁目	0.88	1.42	33.69	0.99	27.05	3.04	13.5%	159.6	1.15	5.49	6.56	6.55
	栄町1丁目	0.77	1.46	34.23	0.41	25.37	1.27	1.8%	32.8	-3.81	4.97	7.14	7.14
	栄町2丁目	0.70	1.55	34.24	0.55	26.58	1.13	4.9%	66.9	-6.82	1.21	2.51	2.51
	栄町3丁目	0.52	1.99	34.50	0.37	21.01	0.61	0.0%	129.4	-6.30	5.44	9.16	9.16
	栄町4丁目	0.46	2.05	34.32	0.12	19.43	0.36	0.0%	256.7	-2.30	3.04	6.78	6.78
	栄町5丁目	0.88	1.59	34.01	0.44	20.55	0.86	0.3%	161.9	4.08	11.91	26.02	26.02
	幸町1丁目	0.83	1.47	34.22	0.48	24.69	1.13	5.9%	97.9	1.67	8.65	14.26	14.26
	幸町2丁目	0.77	1.53	34.41	0.28	25.62	0.48	0.0%	85.0	-3.92	4.45	21.22	21.22
	幸町3丁目	0.97	1.46	33.66	0.92	23.42	1.56	0.1%	97.4	0.04	8.30	39.77	39.77
	膝折町1丁目	0.94	1.33	34.18	0.69	26.36	1.61	10.5%	23.1	-4.20	3.35	4.59	4.69
	膝折町2丁目	0.58	1.56	33.81	0.86	25.99	12.16	5.7%	108.7	-2.56	6.23	12.80	12.80
	膝折町3丁目の一部	0.37	1.54	33.63	0.59	23.73	80.94	0.0%	32.1	-1.96	5.77	0.91	2.14
	膝折町4丁目の一部	0.77	1.27	33.99	0.64	22.96	21.78	5.4%	23.7	-3.87	5.70	3.25	3.88
	膝折町5丁目	0.99	1.24	33.97	1.22	25.04	2.99	26.7%	4.3	-2.36	3.94	5.13	5.20
	溝沼1丁目	0.75	1.50	34.32	0.61	25.70	1.27	6.5%	53.1	-1.76	4.74	4.76	4.76
	溝沼2丁目	0.80	1.37	33.83	1.03	30.57	7.48	7.5%	92.7	-4.81	2.08	2.23	1.35
	溝沼3丁目	0.87	1.22	34.14	0.76	26.59	1.58	6.4%	10.2	-4.45	4.90	4.82	3.19
	溝沼4丁目	0.50	1.55	34.30	0.49	24.12	0.97	4.3%	35.8	-5.61	7.58	6.54	1.91
	溝沼5丁目	0.63	1.33	33.90	0.77	31.27	1.71	8.0%	67.7	-6.33	3.01	3.53	1.72
	溝沼6丁目	0.49	1.33	34.01	0.78	31.76	1.37	5.0%	49.4	-4.17	3.58	2.75	1.97
	溝沼7丁目	0.39	1.31	34.07	0.58	27.31	1.24	6.3%	44.8	-5.07	8.98	3.32	0.32
	大字溝沼の一部	0.60	0.87	32.76	1.65	31.29	63.33	18.6%	66.3	0.04	9.44	6.02	0.96
	青葉台1丁目	1.28	1.22	32.46	2.01	38.12	38.31	1.0%	226.0	10.98	18.69	33.89	33.89
	大字膝折	1.99	0.46	30.90	3.51	48.83	55.49	0.0%	195.7	12.76	25.05	42.47	42.47
	自衛隊	1.42	1.07	32.60	1.92	37.07	2.81	0.0%	26.8	1.61	64.50	81.92	81.92
	自衛隊	1.95	0.50	31.61	3.47	46.70	2.32	0.0%	10.7	0.44	32.32	58.74	58.74
	自衛隊	1.42	1.03	32.53	1.78	37.95	2.72	0.1%	13.4	2.97	142.55	144.83	144.83
	地域全体	0.97	1.28	33.49	1.19	29.50	9.82	4.0%	78.6	-0.79	21.62	28.79	28.36
	朝霞市全域	0.77	1.08	33.06	1.59	32.47	11.22	9.9%	75.1	-1.21	32.12	32.95	14.95

グリーンインフラの効用別分析

健全な水循環を支えるみどり	建物がが増えていますが、基地跡地や朝霞駐屯地、畑などでは、雨水がよく浸み込み、水害を防いだり、地下水を蓄えたりするのに役立っています。
都市の気温上昇を抑えるみどり	住宅が増えて地面の温度が高くなりやすいですが、基地跡地や朝霞駐屯地は涼しい場所になっており、ヒートアイランド現象を和らげるのに役立っています。
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	まちが発展する中でも、基地跡地や朝霞駐屯地にある森や草地は、二酸化炭素を吸収しています。しかし、雑木林ではナラ枯れという病気の被害が増えていることが課題です。
生き物の生息空間となるみどり	基地跡地や朝霞駐屯地にある森や草地には、たくさんの種類の生き物が暮らしていると考えられ、生き物の移動ルートの一部として大切な役割を果たしています。
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	黒目川や基地跡地の周りがあるみどりの風景は、とても人気があります。公園や畑、並木道なども地域のみどりとして親しまれていますが、みどりが少ない場所もあります。
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	溝沼や膝折町、本町3丁目のあたりには畑が点在しており、身近な場所で農業に触られる環境が残されています。
健康づくりの場となるみどり	朝霞駅から基地跡地の周辺は、並木道や遊歩道が整備され、健康づくりに役立っています。一方で、歩きやすい歩道が十分につながっていない地域もあります。
身近な遊び場となるみどり	基地跡地の周辺や、和光市・練馬区に近い地域は公園が充実していますが、それ以外の地域では公園が不足しています。
にぎわいや交流の場となるみどり	朝霞の森などではイベントが開かれ、交流の場になっています。しかし、ほかの場所ではイベントができる広場が足りないため、今ある公園などをうまく活用することが大切です。
防災拠点となるみどり	青葉台公園や朝霞中央公園など、大きな公園があるため、災害時の拠点となる場所は概ね確保できています。

1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

南部地域のみどりの方針

主な課題

- 《大規模なみどりを守り、維持する》 基地跡地などの大きなみどりは、まちの気温上昇を抑え、二酸化炭素を吸収する、まさに都市の肺のような存在です。この貴重な環境を適切に管理し、その機能を維持していくことが欠かせません。
- 《みどりのバランスを整える》 基地跡地周辺には大きな公園が集中していますが、それ以外の住宅地では身近な公園が不足しており、みどりの量に偏りが見られます。
- 《みどりのネットワークの形成》 みどり豊かで安全な歩道を望む声が多くなっています。本町や溝沼では、誰もが安心して歩ける道の整備が求められています。
- 《都市を支えるグリーンインフラの充実》 基地跡地周辺のまとまったみどり以外は、建物や道路など、水が地面にしみこみにくい場所が多くなっています。そのため、大雨の際に雨水が一気に流れ出す心配があるほか、ヒートアイランド現象も課題です。まちづくりにおいてグリーンインフラの考え方が重要になります。
- 《コミュニティの場の形成》 大きな公園以外に、地域の皆さんが気軽に集まれるような広場が少なく、地域の人たちのつながりを深める上での課題となっています。
- 《樹林地の保全》 樹林地は貴重な自然環境です。これを残すとともに、将来にわたって良い状態が続くよう、管理していくことが求められます。

主な取組

① 大きなみどりを守り、その価値を高める

- a. 基地跡地一帯の緑地は、朝霞のまちのグリーンインフラの要として、公園としての整備を進めたり、みどりが持つ様々な機能を守ったりします。
- b. 朝霞の森の周辺では、貴重なみどりを環境学習やにぎわいの場として活用するなど、その価値を共有し、未来へ引き継いでいくための取組を進めます。

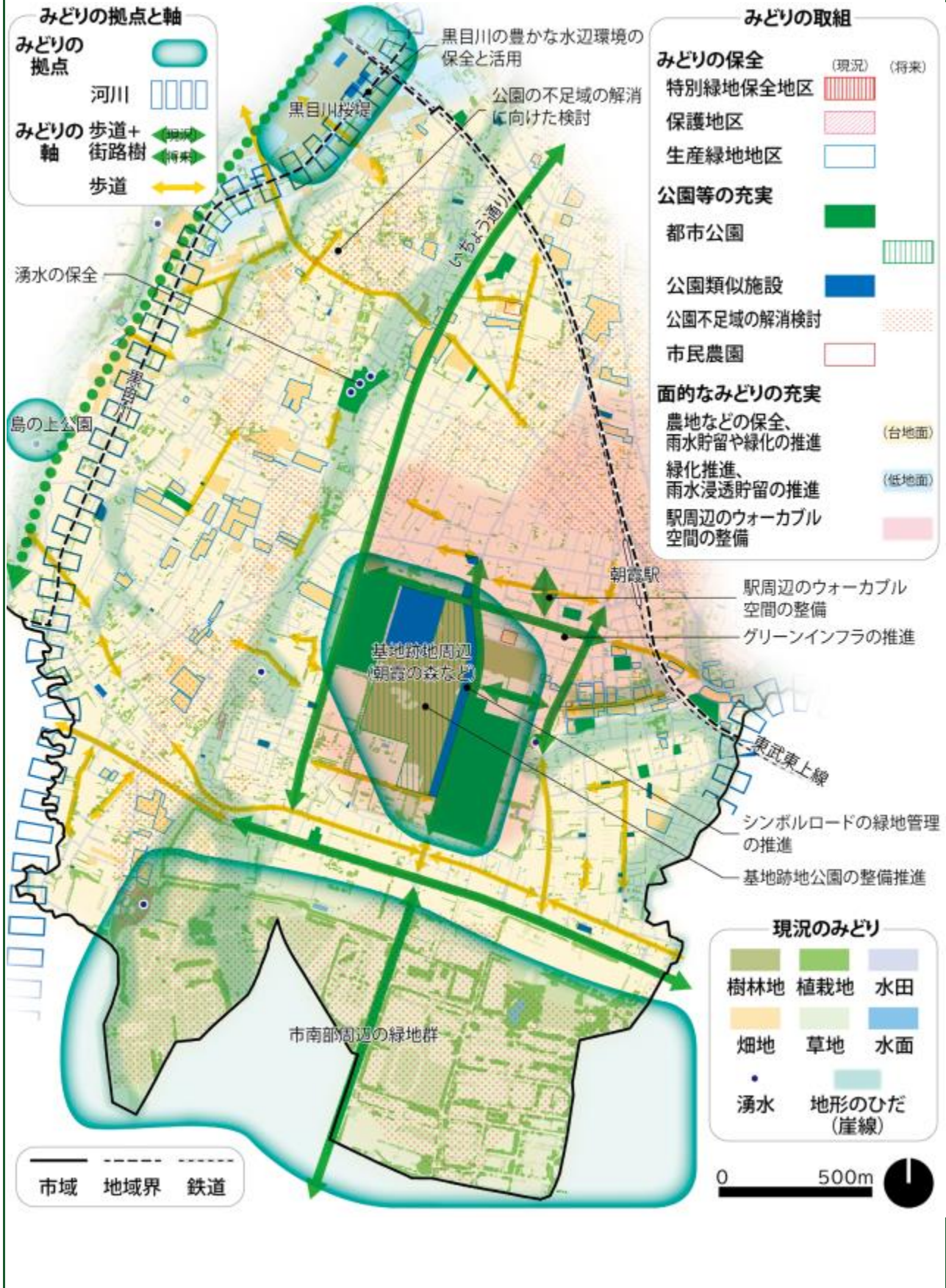
② みどりの恵みを地域全体に広げる

- a. 公園が不足している住宅地において、計画的に公園等を確保できないか検討し、みどりの配置のバランスを整えます。
- b. 駅の周辺では、ウォーカブルな空間づくりを進めます。また、大きな緑地と住宅地をみどり豊かな歩道などでつなぎ、誰もが安全にみどりの恵みに触れられるネットワークをつくります。その際、ベンチやポケットパークなどを設け、ひと休みできる空間を充実させます。

③ グリーンインフラで暮らしの安全と快適性を高める

- a. この地域には公共空間が多く、これらが水循環や暑さ対策、生き物の保全などに役立っています。引き続き、グリーンインフラの視点を大切にしまちづくりを進めます。
- b. 農地や林を守るほか、民有地における緑化や、雨水を貯めたりしみ込ませたりする施設の設置を働きかけます。また、みどりのカーテンの普及などを通じて夏の暑さを和らげるとともに、小さな広場をつくるなど、コミュニティづくりにつながる取組を応援します。
- c. これらの取組により、大雨による浸水被害を防いだり、湧水を守ったり、ヒートアイランド現象を和らげたりすることを目指します。

みどりの方針図



1章 計画の基本的事項
2章 現状と課題
3章 未来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

コラム

もしも台地上の農地がなくなったら、朝霞の湧水はどうなるのでしょうか。

朝霞の自然を象徴する湧水がどこから来ているのか、コンピューターシミュレーションにより地下水の流れを分析しました(参考資料編6ページ参照)。その結果、湧水のすぐ近くにある台地の地面だけでなく、数キロも離れた朝霞駐屯地や東京都練馬区のあたりに降った雨までもが、長い時間をかけて地下を通り、朝霞の湧水となって現れていることが分かりました。

農地がなくなると湧水はどうなるのか

近年の湧水調査によると、湧き出る水の量が減っている場所があります。原因は、雨水を地面にしみ込ませていた台地上の農地などのみどりが減ったことだと考えられています。

もし市内の農地がすべて建物やアスファルトに変わったらどうなるか。シミュレーションでは、農地が集中するエリアを中心に、地下水の水位が下がり、湧き出す水の量も減るという予測が出ました。

- 湧き出す水の量は、代官水などの周辺で、一日におよそ最大 20 m³ 減る可能性
- 川に流れ込む水の量は、黒目川の末端付近で、一日におよそ最大 690m³ 減る可能性

雨が少ない時期にこうした影響が重なると、湧水が完全に枯渇しまう恐れも否定できません。湧水に由来する水辺や湿地に暮らす生きものたちにも深刻な影響を与えられそうです。

湧水を支える農地の大切な役割

分析結果から見てきたのは、台地上の農地が湧水を維持するために重要な役割を果たしているという事実です。農地は降った雨を一時的に蓄え、ゆっくり地下へしみ込ませる機能を持っています。いわば、湧水の起源そのものと言える場所なのです。

まち全体で雨水をしみ込ませる工夫を

朝霞の財産である湧水を守るためには、台地上の農地などみどりを守っていく必要があります。それと同時に、まち全体を雨水をゆっくりしみ込ませるスポンジのようにしていく工夫が求められます。

たとえば、雨庭を作ったり、雨水浸透柵や雨水をためるタンクを設置したり、地面を水が通る舗装にしたりすることです。このように雨水をゆっくり大地にしみ込ませることは、湧水を育むだけでなく、大雨の時に一気に水があふれ出す水害を防ぐことにも貢献します。

湧水を守る取り組みは、災害に強い安全なまちづくりにもつながっているのです。

7章 計画の実現に向けて

1 計画の推進体制

本計画の基本理念である「朝霞らしいみどりを みんなで育み 暮らしに生かすまち」を実現するためには、市民、ボランティア活動団体、民間事業者、学校、行政など、朝霞に係るすべての人たちが一体となって取り組むことが大切です。本計画で位置づけた取組は、各主体が自らの役割を理解し、協力し合いながら推進していくものとします。

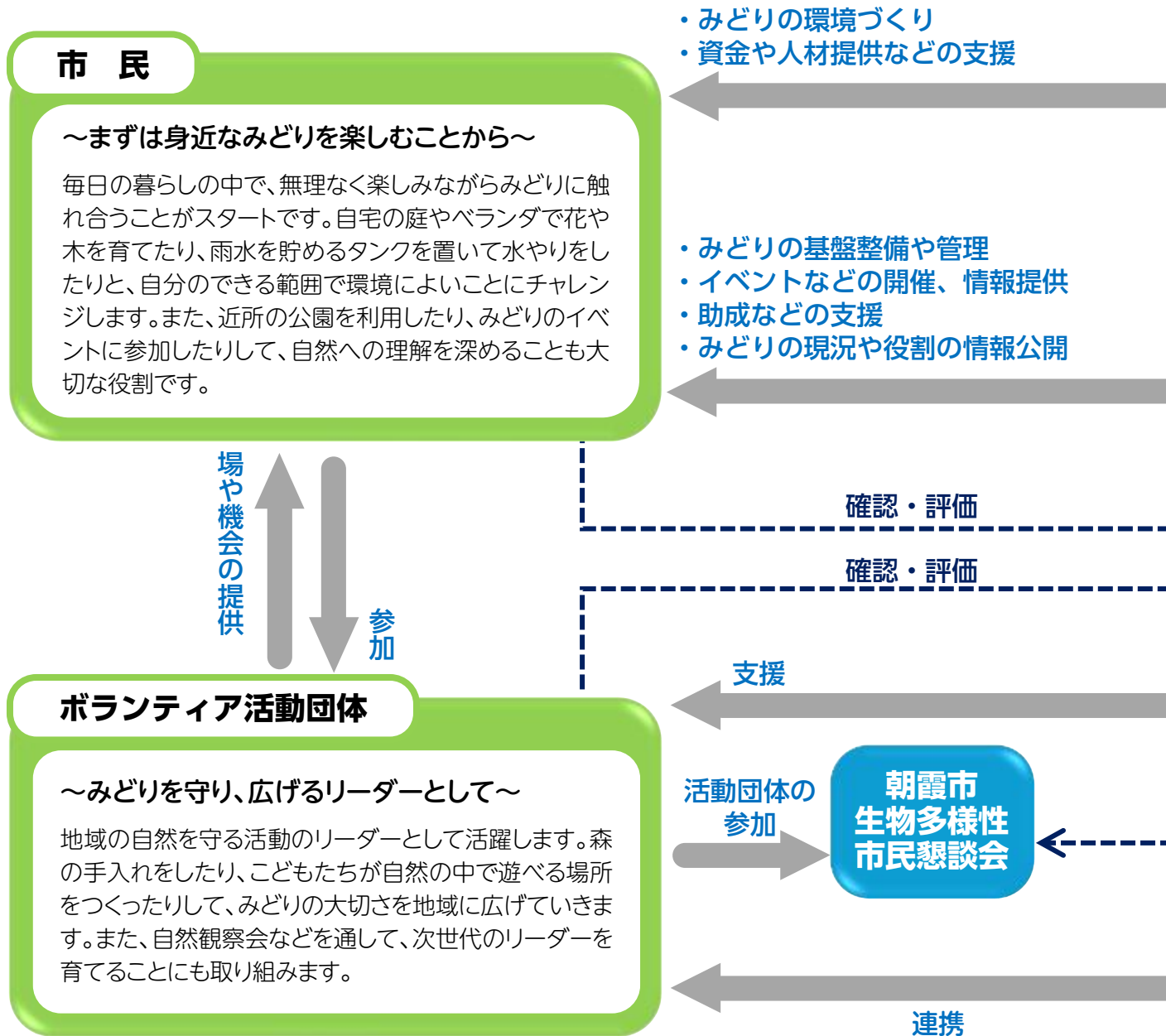
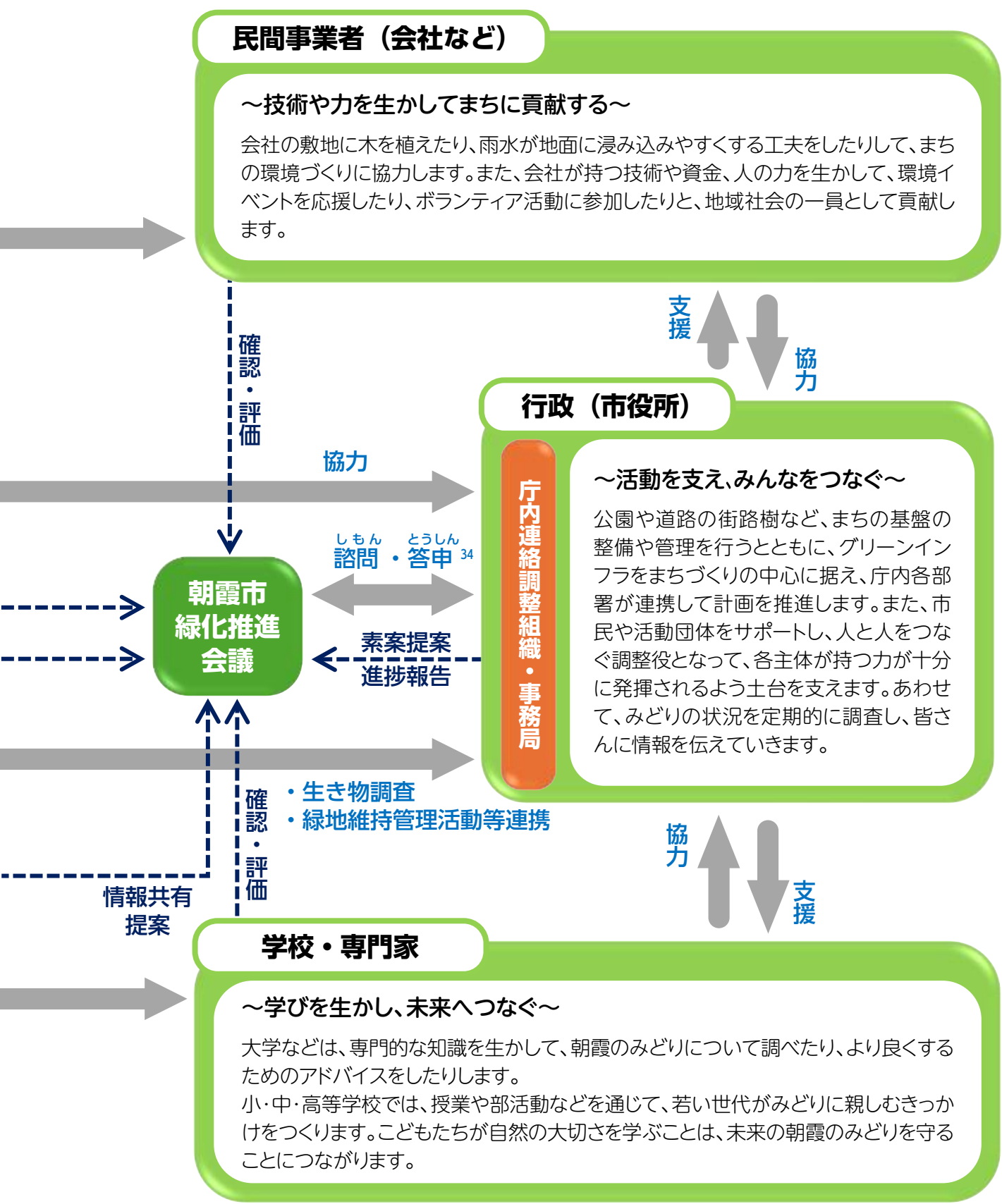


図 7-1 計画の推進体制

1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集



34 諮問は、国や自治体が、専門家や市民の代表からなる機関に意見を求めることです。答申は、諮問を受けた機関が、検討した結果を公式な意見として返すことです。

2 計画の進行管理

(1) 進行管理を図るための目標設定

行政、市民、民間事業者などが共通のゴールを見据え、着実に取組を進めていく必要があります。そこで、計画の進捗を客観的に見える化し、効果的な進行管理を行うための指標として、全体目標と個別目標を掲げます。

① 全体目標

まち全体のみどりに関する現況を数値で把握し、全体目標を設定します。みどりの量を示す緑地率や整備水準に加え、みどりの質や係りを示す満足度や利用頻度を指標として設定します。

表 7-1 全体目標

目標項目	目標設定の考え方	現況値 令和 7(2025) 年度末	目標値 令和 17(2035) 年度末
みどりの満足度 ³⁵	みどりの量だけでなく、みどりがどれだけ愛され、心地よい空間となっているかという質を測るため、満足度を目標とします。	+0.29	+0.30
市域に占める緑地率 ³⁶	私たちの暮らしを支えるみどりは、年々減少傾向にあります。このかけがえのない財産を守り将来へ残していくため、市全体のみどりの量を確保する目標を定めます。	21.5%	22.3%
都市公園の整備水準 ³⁷	誰もが身近にみどりを感じられる、安全で快適なまちづくりを実現するため、憩いや防災、自然との触れ合いの拠点となる都市公園の充足を目標とします。	2.13 m ² /人	3.16 m ² /人
公園の利用頻度 ³⁸	公園は整備するだけでなく、使われてこそ価値が生まれます。公園が利用しやすく、魅力的な空間になっているのかを、活用の視点から把握するため、利用頻度を目標とします。	30.9 回/年	31.9 回/年

35 みどりの市民アンケート調査における問 1-a「朝霞市のみどりの豊かさや魅力に満足している」の回答(そう思う(+1.0)～そう思わない(-1.0)までの5段階評価)の平均。

36 都市公園、学校などの公共施設の植栽地、社寺などの民有地の植栽地、特別緑地保全地区や保護地区、生産緑地などの法律や条例で守られている緑地などのすべての緑地面積が市域に占める割合。

37 市内の都市公園の総面積を市の人口で割った一人当たりの都市公園面積のこと。

38 みどりの市民アンケート調査により得られる公園の年間利用回数の平均。

② 個別目標(重点施策の目標)

重点施策の達成状況を測る個別目標を設定します。特別緑地保全地区の拡大や新たな公園整備といったハード面の取組から、ガイドラインの策定やデジタル活用といったソフト面の取組まで、施策ごとの具体的な目標を掲げます。計画目標は 10 年間の計画期間内で着実な実行を図るもの、将来目標は計画期間内に実行に努め、その後実現したい大きなものを掲げています。

表 7-2 個別目標(重点施策の目標)

施策の柱	重点施策	計画目標	将来目標
1-1 樹林地と農地の保全	(1) 樹林地等の担保性の向上	特別緑地保全地区の指定面積拡大 約 2.7ha (現況値+0.6ha)	特別緑地保全地区の指定面積拡大 約 3.6ha (現況値+1.5ha)
	(2) 里山保全活動の推進	里山管理ガイドラインの策定・運用	里山管理ガイドラインの運用による良好な自然環境の保全
1-2 水辺の保全	(1) 湧水の保全	雨水貯留浸透施設等の設置推進	水循環の健全化による湧水源の涵養
1-3 公園の整備と管理	(1) 公園の整備推進	まぼりみなみ公園の整備 内間木公園の拡張整備	基地跡地公園の整備
	(3) 公園の維持管理の充実	公園等植栽管理指針の策定・運用	公園等植栽管理指針の運用による質の高い空間の創出
1-4 道路・河川のみどりの育成	(2) ウォーカブルな空間形成	人中心の北朝霞駅北口広場への転換	朝霞駅周辺及び北朝霞・朝霞台駅周辺のウォーカブルな空間形成
2-1 みどりの担い手の育成と連携	(2) 担い手の連携の拡充	Park-PFI 事業者による内間木公園の運営	Park-PFI 事業者による基地跡地公園の運営
2-4 みどりの支援体制の強化	(1) 財源の確保と活用	機能維持増進事業の活用	多様な手法による財源の確保
	(2) みどり・公園分野における DX の推進	公園台帳のデジタル化	DX の推進による効率的な公園管理
3-1 みどりのシティプロモーションの展開	(2) 情報発信の強化と充実	自ら情報発信できるオンラインプラットフォームの導入	市民が主体となったみどりの情報発信
3-2 みどりのある暮らしの実践	(1) みどりを楽しむ	グリーントレイルマップの更新	みどり資源を生かした健康増進の場づくり

2 計画の進行管理

(2) グリーンインフラの多面的効用のモニタリング

みどりを単に保全・創出するだけでなく、グリーンインフラの多面的効用が十分に発揮されているかを継続的に把握・検証する必要があります。そのため、定期的な調査や科学的なシミュレーション、市民協働によるデータ収集を組み合わせたモニタリングを実施し、客観的な根拠に基づくまちづくりを進めます。

① モニタリングの実施手法

みどりの量だけでなく、防災や環境調整、コミュニティ形成といったみどりの質や機能を把握するため、以下の手法を用いて多角的なデータを収集します。

表 7-3 モニタリングの実施手法

みどりの調査	おおむね 5 年ごとに実施する緑被率経年変化調査、およびみどりの市民アンケート調査により、みどりの基礎データと市民意識の変化を定点観測します。
科学的シミュレーション	雨水浸透や地表面温度など、目に見えにくい機能については、地理情報システム等を用いたシミュレーションにより数値を算出します。
市民・ボランティアとの連携	市民参加型の生き物調査などを実施し、身近な自然の変化をきめ細かく捉えます。
見える化の推進	収集したデータをもとにグリーンインフラマップを作成・更新し、みどりの機能をわかりやすく可視化します。



あさか環境市民会議が主催する市民参加の野鳥調査
(写真提供者:あさか環境市民会議)

② 分析指標の設定と活用

収集したデータを基に、みどりが持つ多面的効用が発揮されているかを検証するため、下表の分析指標を設定します。これらの指標を用いて、町丁目ごとの詳細な状況を把握し、地域ごとの特性に合わせた施策の検討や、優先的に取り組むべきエリアの特定に活用します。

表 7-4 グリーンインフラの分析指標

評価項目	評価指標	内容
健全な水循環を支えるみどり	雨水の地表面浸透量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面浸透量
	雨水の地表面排水量 (mm/日)	水循環シミュレーションにより算定された地表面排水量
都市の気温上昇を抑えるみどり	地表面温度 (°C)	GI タイプの分布とランドサット衛星観測データより作成した輝度温度との回帰分析による推測地表面温度
地球温暖化の緩和に貢献するみどり	炭素固定量 (トン/ha/年)	GI タイプにおける純生産量の算定を介した年間の炭素固定量の算定
生き物の生息空間となるみどり	生物指標の多様度 (%)	34の生物指標を分母としたGIタイプで生息が想定される生物指標の数の割合
まちの景観・郷土の風景を形成するみどり	豊か・魅力的と感じるみどりの回答数 (件)	市民アンケート調査において抽出された豊か・魅力的と感じるみどりの回答数
暮らしに息づく農業活動の場となるみどり	農業活動空間面積率 (%)	耕作地及び休耕地の50%の面積を評価単位空間面積で除したもの
健康づくりの場となるみどり	散策路・歩道の長さ (m/ha)	公園緑地等の遊歩道と道路の歩道の長さ
身近な遊び場となるみどり	必要公園面積に対する現況公園の過不足面積 (ha)	半径500m以内の人口に近隣住区モデルの住区基幹公園標準面積(4ha)を乗じた必要面積に対する現況の都市公園等の過不足面積
にぎわいや交流の場となるみどり	イベント開催に供するオープンスペース面積 (㎡/人)	評価地点から500m以内における1000㎡以上の都市公園やイベント開催に供するオープンスペースの一人当たりの面積
避難地や防災拠点となるみどり	非水害時における避難有効面積 (㎡/人)	評価地点から500m以内における学校や1000㎡以上の都市公園等における一人当たりの避難有効面積
	水害時における避難有効面積 (㎡/人)	

2 計画の進行管理

(3) 定期的な進行管理と計画の見直し

① PDCA サイクルによる進行管理

これらの分析指標によって得られた結果は、まちづくりの次なる施策へ生かします。例えば、雨水浸透機能が低いエリアでは雨庭の設置を重点化する、気温が高いエリアでは木陰を増やすなど、データに基づいて施策の方向性を修正・決定することで、限られた予算と資源で最大限の効果を引き出す順応的な管理を行います。

また、社会情勢の変化やグリーンインフラの多面的効用の検証結果を的確に反映させるため、「P(計画) - D(実行) - C(評価) - A(改善)」のサイクルにより、継続的な改善を図ります。

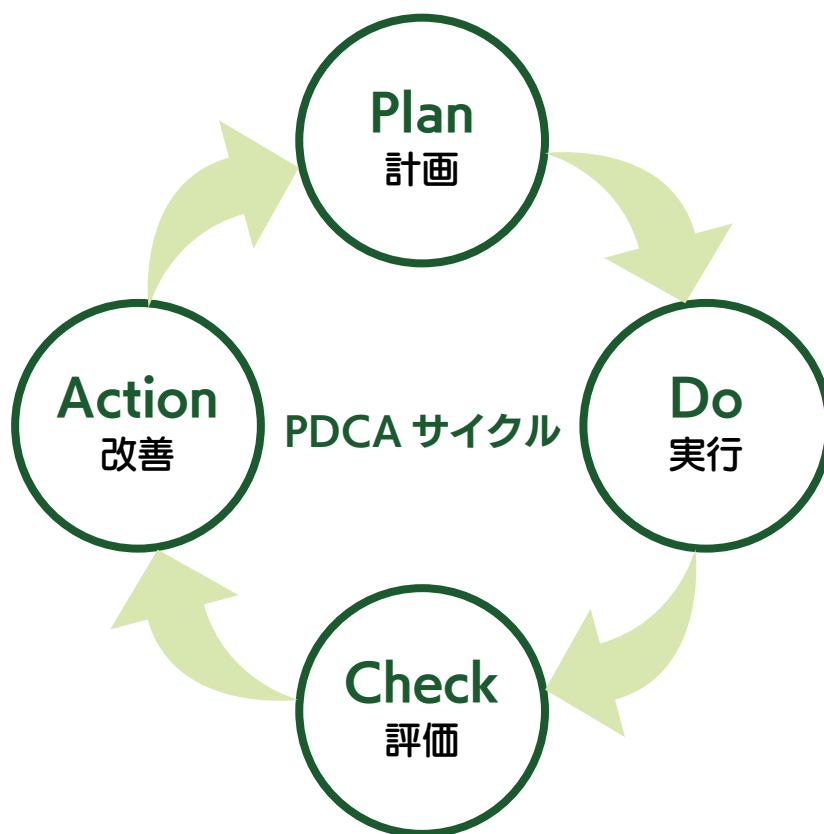


図 7-2 PDCA サイクルによる進行管理

② 計画の進行管理と見直し

年度ごとに事業進捗を整理し、朝霞市緑化推進会議において検証を行います。

また、社会情勢の変化や、気候変動の影響、技術革新のスピードに対応するため、調査結果などに基づいて柔軟に計画の見直しを行うローリング方式³⁹を採用します。

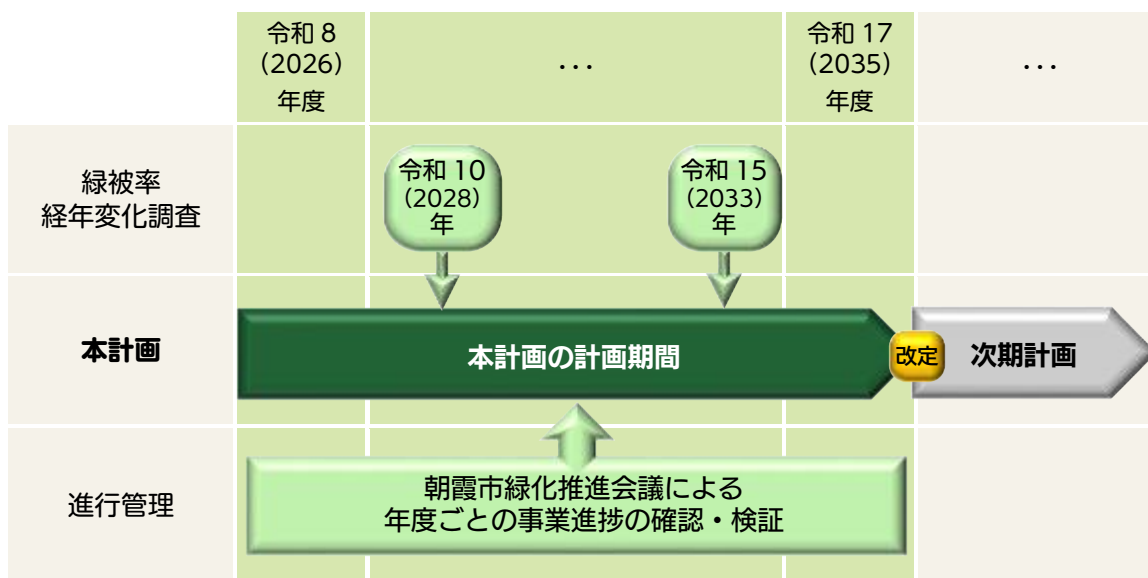


図 7-3 定期的な計画の見直し

本市のみどりの基礎データである緑被率経年変化調査は、5年ごとに実施しており、本計画期間中は、令和10(2028)年度と令和15(2033)年度に実施予定です。この調査により、みどりの量の変化や、施策の効果を客観的な数値として把握します。

計画期間の終盤に実施する令和15(2033)年度の緑被率経年変化調査の結果は、令和18年度以降の次期計画策定に向けた基礎資料として活用します。

また、緑被率経年変化調査の実施にあたっては、技術の進歩やグリーンインフラの分析目的に応じ適切なデータの取得を検討します。

39 計画の策定後、固定的に運用するのではなく、一定の期間ごとに計画内容の見直しを行う手法のこと。社会情勢の変化や、事業の進捗状況、財政状況などを踏まえ、計画と実態との乖離を防ぐために修正・補正を加えることで、計画の実効性を維持・向上させることを目的としています。

朝霞市空中写真
(掲載予定)

朝霞市空中写真
(掲載予定)

參考資料集

1 みどりの多面的効用に着目した分析

(1) グリーンインフラの分析の目的

今、世界では、自然を回復させてより豊かな状態にしていこうとするネイチャーポジティブという考え方が広がっています。本市においても、これまで以上にみどりを大切に守り、増やしていく取組を進めていくことが求められます。

そこで、こうした取組を確かな根拠に基づいて進めていくために、みどりが人々の生活をどれほど豊かにし、支えてくれているのか、そのさまざまな効果について詳しい分析を行いました。

みどりには、人間や生き物の暮らしを支えるだけでなく、まちの魅力を高めるなど、数多くの大切な機能があります。こうしたみどりが持つさまざまな機能をかしこく使って、まちづくりの課題解決へ活用することを目指すのが、グリーンインフラの考え方です。

今回の分析では、このみどりの機能という視点に立って、市内の現状を詳しく調べています。

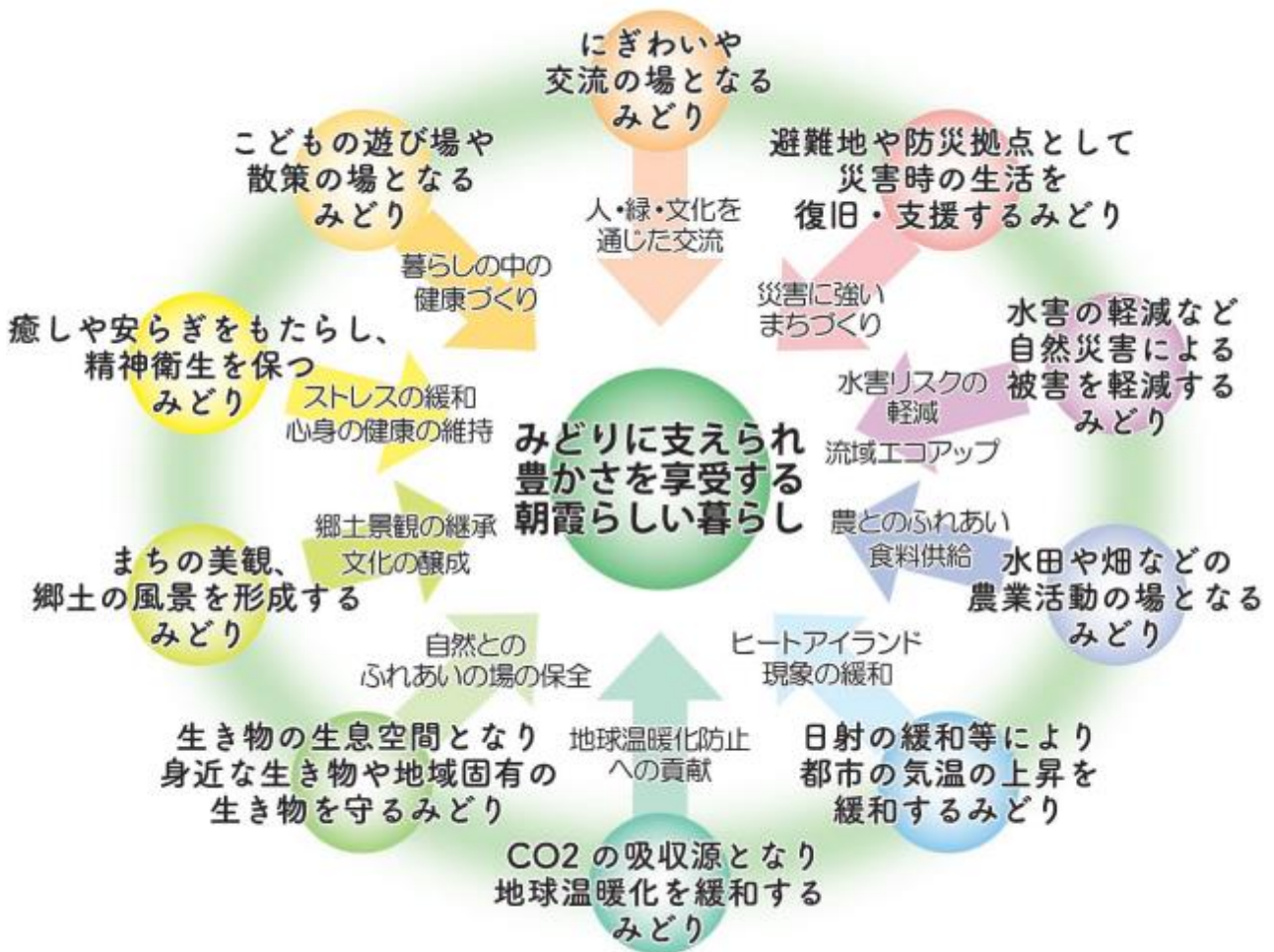


図 参-1 グリーンインフラの多面的な機能

1章 計画の基本的事項
2章 現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集

(2) グリーンインフラの分析の構成

解析に先立ち、本市のみどりや土地被覆などの情報を網羅した朝霞市グリーンインフラマップ(GI マップ)を作成しました。本分析では、このマップを活用し、みどりが持つ多面的な機能の視点から評価を行っています。また、一部の評価軸においては、みどりの市民アンケート調査から得られた環境に対する市民の主観的な評価を取り入れています。さらに、同調査におけるみどりの機能別のサービスへの支払い意思の結果に基づき、各評価の重み付けを行うことで、市民の意向をより直接的に反映した総合評価を算出しています。

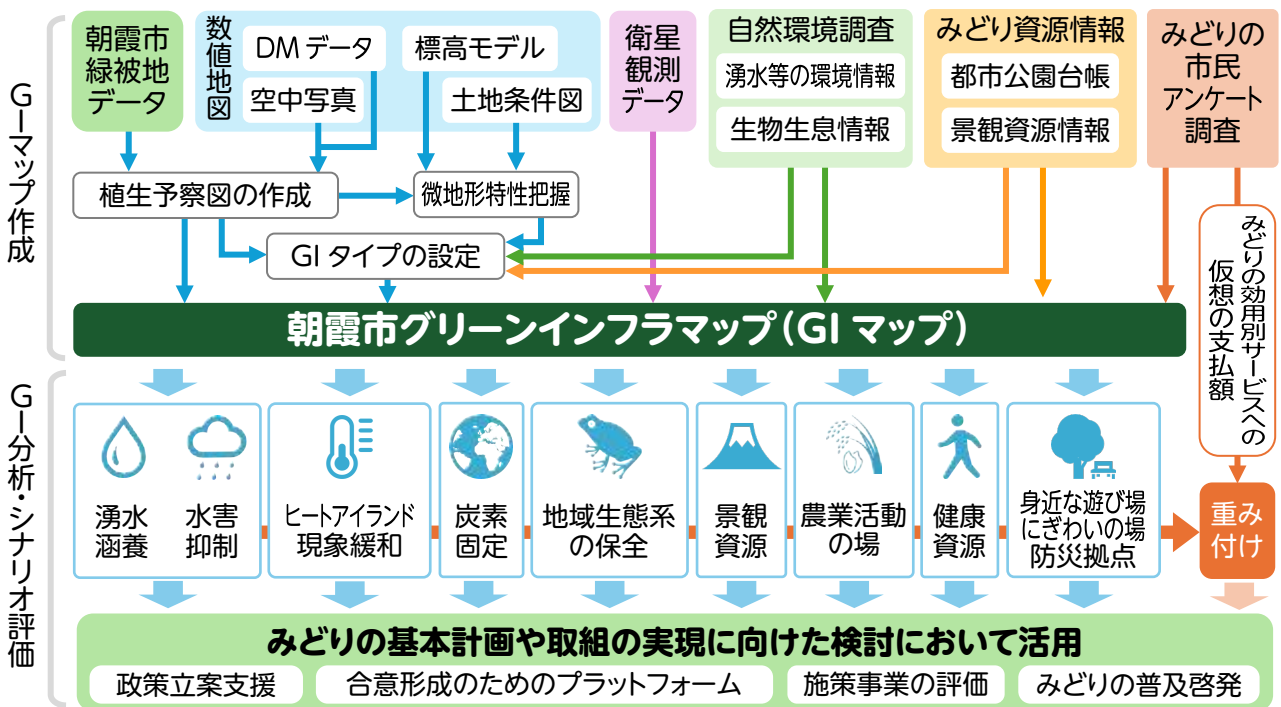


図 参-2 グリーンインフラの解析の構成

(3) 朝霞市グリーンインフラマップ

グリーンインフラ解析を進めるにあたり、その基盤となる朝霞市グリーンインフラマップ(GI マップ)を作成しました。作成の手順としては、まず令和 5 年度に実施した緑被率経年変化調査の結果をもとに、植生予察図を整備しました。この緑被率経年変化調査では、衛星データなどを用いたリモートセンシング技術により緑地を抽出していますが、技術の仕組み上、誤判読が避けられない側面があります。そのため、空中写真やデジタルマップを用いた目視による修正を念入りに加えることで、抽出精度の向上を図りました。次に、この植生予察図に微地形の分布や自然環境の情報を重ね合わせ、本市独自のグリーンインフラタイプ(凡例を設定しました。この区分に基づいて図面の精緻化を行うとともに、雨水の浸透能力や、植生ごとのバイオマス係数といった各種の環境性能に関する数値をデータとして反映させ、マップを完成させています。

本マップの大きな特色は、一般的なみどりの現況図とは異なり、樹林地、草地、農地、水辺地といった自然地だけでなく、住宅地などの市街地も網羅して地図化している点にあります。グリーンインフラの解析には、みどりの情報だけでなく、その背景となる市街地側の環境情報が欠かせないためです。

1 みどりの多面的効用に着目した分析

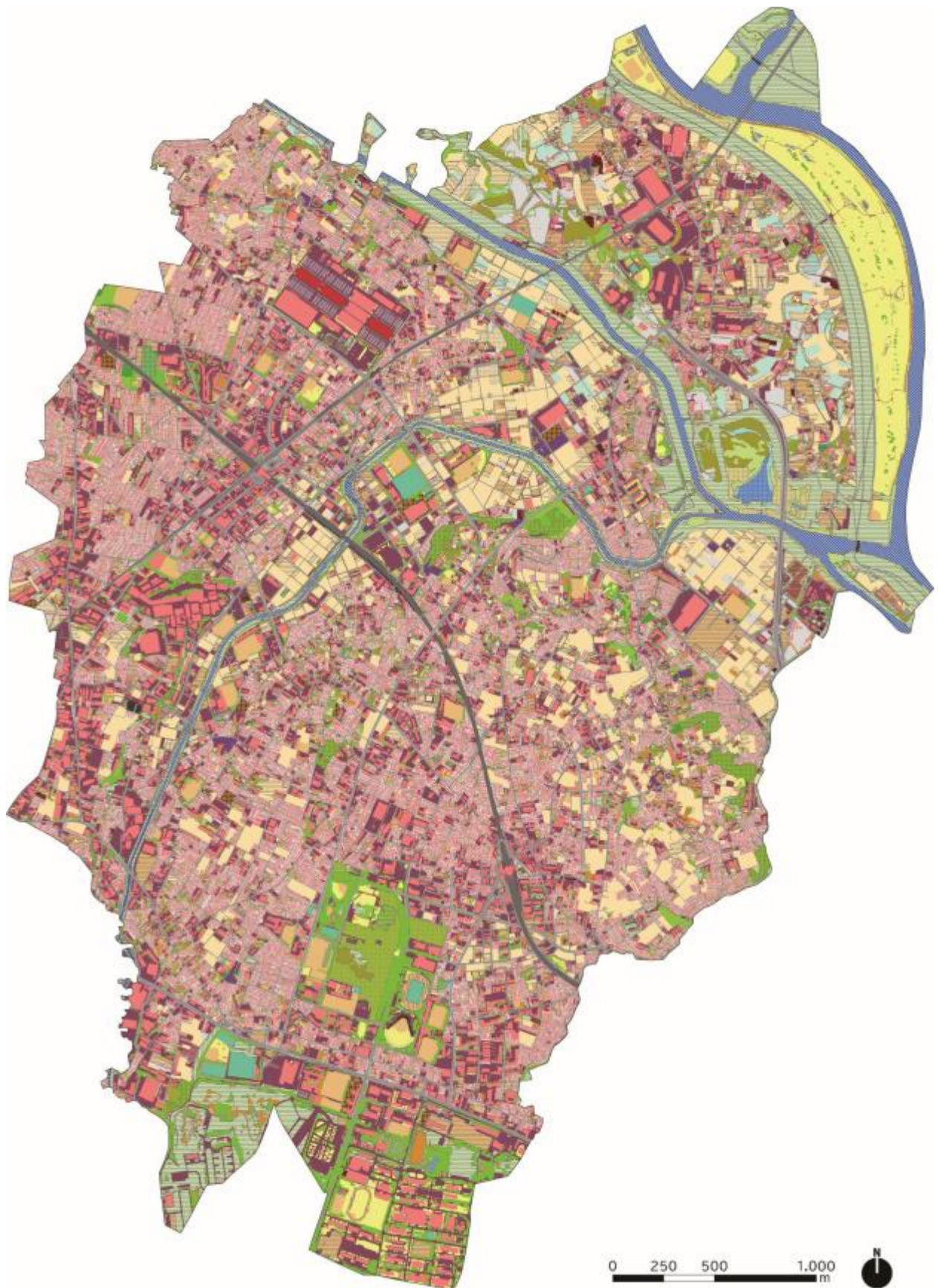


図 参-3 朝霞市グリーンインフラマップ

凡例

	101. 湿田		511. アスファルト舗装
	102. 休耕湿田		512. 透水性舗装
	103. 湿性立地の管理放棄型の草原		513. 土系砂系舗装
	104. 中性立地の冠水型草原		514. 碎石舗装
	105. 蓮池		515. 樹脂舗装
	201. 蔬菜畑		516. 造成地
	202. 果樹園・樹木畑		517. 資材置き場
	203. 休耕地		518. 墓地
	204. 耕作放棄地		521. 建築物
	304. 河辺の落葉樹自然林		522. 特殊緑化(草地)
	309. 低山地の常緑樹二次林		523. 特殊緑化(樹木)
	310. 段丘崖の常落広葉樹混交林		524. 人工芝
	311. 中～乾性立地の落葉樹二次林		526. 防草シート
	312. 中～乾性立地の伐採跡地二次林		527. 敷き鉄板
	314. 中～乾性立地の針葉樹植林		528. コンクリート構造物
	318. その他の落葉樹植林		529. コンクリート擁壁
	319. タケ類植林		531. 間地
	321. 中～乾性立地の管理放棄型の草原		542. 緑化ブロック
	322. 中～乾性立地の粗放管理型の草原		543. 太陽光パネル
	323. 湿性立地の冠水型草原		544. 配管施設
	324. 中性立地の冠水型草原		550. 植栽地起源の管理放棄型樹林
	401. ため池		601. 車道(舗装)
	402. 生態復元池		602. 車道(未舗装)
	403. 自然的護岸の池		603. 車道(透水性舗装)
	406. 遊水池・調整池		604. 車道(高架)
	407. プール他		606. 歩道(舗装)
	412. 人工護岸の中小河川		607. 歩道(未舗装)
	413. 自然的護岸の中小河川		608. 歩道(透水性舗装)
	421. 農地の小水路		611. 鉄道の軌道敷き
	422. 市街地の小水路		612. 鉄道の高架
	424. 公園等のせせらぎ(護岸不透水)		
	425. 公園等のせせらぎ(自然護岸)		
	441. 礫原		
	442. コンクリート護岸		
	443. 空隙のある護岸		
	501. 高中木植栽地		
	502. 灌木植栽地		
	503. 芝生植栽		
	504. 花壇等		
	505. 裸地		
	506. 強管理草地		
	507. 路傍雑草地		

凡例中の番号は凡例の ID 番号です。
この凡例は、「大澤啓志・他(2004)鎌倉市を事例とした市域スケールでのビオトープ地図の作成、日本造園学会ランドスケープ研究 67 巻 5 号 p. 581-586」等の既往研究を参考に、朝霞市のみどりの実態を踏まえて設定しています。

1 みどりの多面的効用に着目した分析

(4) 効用別分析

① 健全な水循環を支えるみどり

a. 解析の目的

この水循環のシミュレーションでは、市内の地下水の動きを再現することで、地面が雨水を浸透させるチカラや湧水の源となって水を蓄えているエリアを明らかにします。

地面が雨水を浸透させるチカラが大きいと、大雨が降っても水が一度に川や排水路へ流れ出すのを防ぐことができます。つまり、地面が水を浸透させるチカラを詳しく調べることは、まちを水害から守るための大切な分析になります。

b. 朝霞市水循環のモデル化の考え方

朝霞市周辺に降った雨が、どの程度地下に浸み込み、どこへ流れていくのかを調べるために、コンピュータの中にもう1つの朝霞市を再現します。

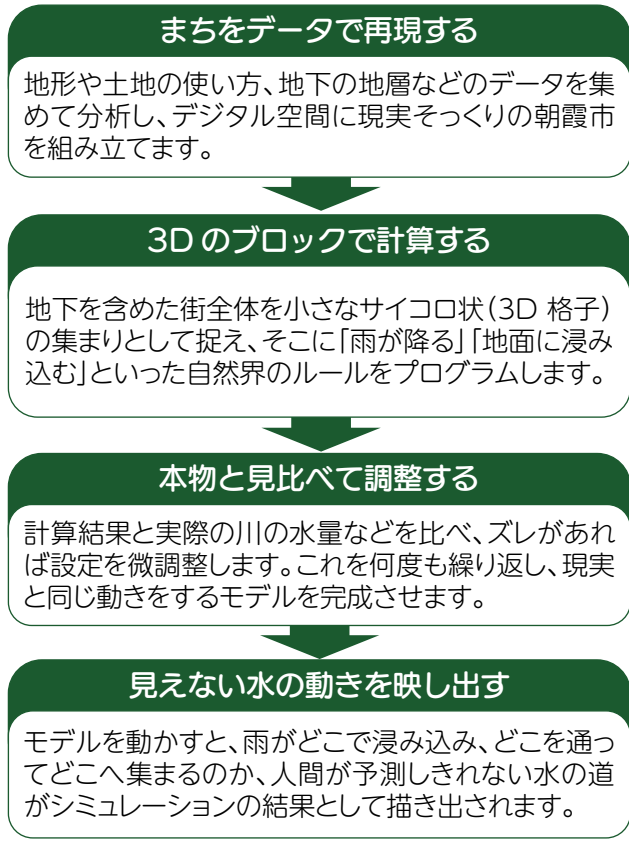
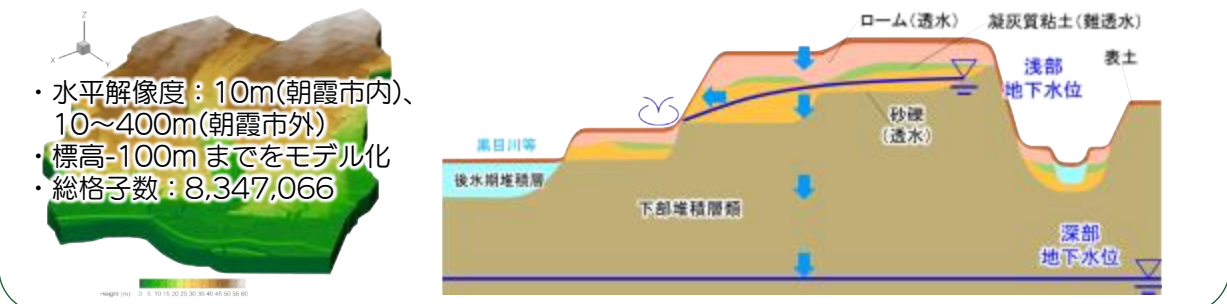


図 参-4 水循環シミュレーションの手順

モデル化の方針

- ・ 段丘面に広がるローム層は比較的透水性が高く、地表から地下に浸透した水は、その下位にある砂礫層中の帯水層に流入します。
- ・ 段丘砂礫層中の地下水は、基底面の傾斜に沿って流れ、台地の末端や段丘崖に湧き出しています。つまり、これらの湧水の起源は、段丘面上で涵養された降雨であるとみなすことができます。
- ・ 一方、関東平野南西部の深層地下水は、長年の揚水により水位が著しく低下しています。そのため、砂礫層中の地下水の一部は、さらに下位の地層に向かって浸透しています。
- ・ したがって、地表から涵養された地下水は、台地の縁辺に湧出するものと地下深部へ浸透していくものに振り分けられます。この配分を適切に評価することが、今回の解析における重要な着目点となります。
- ・ 年間平均降雨（概ね 2.5mm/日）の条件において計算しています。



- ・ 水平解像度：10m(朝霞市内)、10~400m(朝霞市外)
- ・ 標高-100m までをモデル化
- ・ 総格子数：8,347,066

図 参-5 モデル化の方針

※このモデルは GETFLOWS という水の循環を再現するソフトを使用して解析しています。

1章 計画の基本的事項
2章 みどりの現状と課題
3章 みどりの将来像
4章 みどりの指針
5章 みどりの取組
6章 地域別の取組
7章 計画の実現に向けて
参考資料集